

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料

桑地区



2024年1月

小山市

目次

I 調査の趣旨と調査概要	1
1 目的	
2 本調査の「風土性調査」としての性格付け	
3 地域での各種調査	
4 調査報告	2
5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成	
II 踏査および文献調査による報告	3
1 桑地区の概況	
2 地域の自然について	4
3 地域の自然への人の働きかけについて	11
4 地域と人々の心身の結びつき	20
5 景観から読みとれるその他のこと	24
III 簡易社会調査による報告	29
1 目的と実施概要	
1-1 目的について	
1-2 実施概要について	
1-3 座談会形式のグループインタビューについて	
1-4 アンケート調査について	30
2 結果整理の手法について	
3 各調査の結果報告	31
3-1 グループインタビューの記録	
3-2 アンケート調査結果（概要と考察）	57
参考・引用文献	73

I 調査の趣旨と調査概要

1 目的

小山市では、生態系の頂点に立つコウノトリが定着・繁殖するラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」を擁する、都市環境と田園環境が調和したまちとして、小山市の現在の環境を将来にわたり維持向上させていくため、これからのまちづくりを「田園環境都市おやま」と呼び、SDGs の実践と一体化したまちづくりに取り組もうとしている。

本調査は、上記背景を踏まえて、踏査（現地調査）、地域の聞き取り調査、文献調査を実施して基礎資料を作成し、小山市における持続可能な社会実現に向けた「田園環境都市おやま」を具現化させるとともに、市民・企業・市民団体・行政など各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取組みの深化を図るものである。

2 本調査の「風土性調査」としての性格付け

本調査は、地域の風土性（風土の性質、成り立ち）に着目して行った。「気候風土」から「企業風土」まで、人々になじみのある風土は、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけてかたちづくられる（詳細はII章を参照）。

こうした風土の調査は、地域に暮らす市民とともに地域の自然と人間の関係のこれまでを知ることにつながる。そして、そこから地域の持続可能なあり方を考えてゆくことが可能となる。また、ある専門分野の中で行われる地域研究とは違い、調べる対象は自然から社会、文化まで幅広く、それ

ら風土の要素を分析し、要素間の関係を調べた結果を総合・統合することで風土の成り立ちが読み解けてゆくため、地域の実像を浮かび上がらせることに結びつき得る。

このように、持続可能なまちづくりに市民と行政が共同で取り組む際に依って立つ基盤と考えられる風土性調査として、本調査は実施することとした。

3 地域での各種調査

令和5年9月6日から10月29日までを調査期間として、踏査（現地調査）、簡易社会調査2種（聞き取り調査、アンケート調査）、文献調査を組み合わせで行った。以下に、概要を示す。

3-1 踏査

桑地区及びその周辺で踏査を行い、後述する文献調査を適宜組み合わせ、調査地区の地理や動植物の生態、地域の歴史や民俗に関する情報を収集し、地理的条件が土地利用、都市環境・田園環境それぞれの市街地・集落の構成にどのように生かされ、建築物や土木構造物の形態等にどう影響しているのか調査した。また、これらと地域の人々の生活や生業との関係性や、どのように地域の産業や文化等を生みだし発展させ、現在の風土形成にいたっているかについて調査を行った。

踏査は、必要に応じて市担当者と業務受託者が共同で実施した。

I 調査の趣旨と調査概要

3-2 簡易社会調査1 — 地域の聞き取り調査

当該地区の将来のまちづくりに資するキーパーソンを対象に、グループインタビューとして聞き取り調査を行った。

とともに、市民・企業・市民団体・行政等各主体に「田園環境都市おやま」を浸透させて各種取り組みの深化を図るための基礎資料として、本報告書を作成した。

3-3 簡易社会調査2 — アンケート調査

現地調査と聞き取り調査をもとに、調査地区在住の市民が知る情報等をさらに少しでも多く集めることと、「田園環境都市おやま」の具現化に向けた取り組みの周知を目的として、地域の現状や課題それらに対する意見等を尋ねるアンケート調査を行った。

3-4 文献調査

各調査に必要な情報収集のため、当該地区に関連する各種文献について調査を行った。なお、市は業務受託者へ市史や調査対象地区に関する資料を貸与もした。

4 調査報告

風土性調査の結果を調査地区在住の市民に伝える報告発表を下記日程、会場において行った。

- ・ 日程 令和5年11月24日(金) 18:00-19:30
- ・ 会場 桑市民交流センター (マルベリー館)
多目的ホール

5 田園環境都市おやまビジョン基礎資料の作成

上記4で行った報告と当日の質疑応答の結果を踏まえて、「田園環境都市おやま」を具現化させる

II 踏査および文献調査による報告

1 桑地区の概況

桑地区の位置、面積、人口と沿革

桑地区は小山市の北部に位置し、おおよそが宝木台地の上にある。桑地区は、明治22年(1889)の町村制施行にあたり羽川宿、飯塚宿の二宿と東山田村、北飯田村、萱橋村、鉢形村、向野村、出井村、荒井村、喜沢村、南半田村、三拝河岸村の十村が合併した桑村をもととする。地区の面積30.57km²は市の面積の約17.8%、人口20,763人は市の人口の約12.5%を占めている。(令和4年4月1日現在。「令和4年度版小山市統計年報」より)。

今日の桑地区は、13の大字名(上に挙げた二宿十村に東島田が加わる)と一つの町名(扶桑)で呼ばれる14の区域から成り立つ。

台地の上に残された水と緑のモザイク

桑地区の大半は宝木台地の上にあるが、地区の北西を流れる姿川の西岸が鹿沼台地に属す。姿川の他にも水は台地の上に谷を幾筋も刻み、谷と谷の間には平地林が残り、これらの谷と平地林が折り重なる風景が広がる。

宝木台地は、小山市より北側では幅がおおむね2.5-3.5kmであるが、小山市の北縁で約5.5km、南縁では約25kmに幅が増す。この幅の変化が関係してか、台地北部の宇都宮市で釜川や新川を除く谷は短い距離で東西の低地へ下りているが、南部では上三川町から台地の上に長くのびた谷が増える。桑地区では、これらの谷の起点や合流点の下流側にため池が5ヶ所つくられた。そのうち、広さや水量は変わったが、地区東部に西仁連川(にしにれがわ/江川)水源地の弁天沼と同川の支流につくられた山田沼および四ツ沼、地区中部には大

沼と、今も4ヶ所がある。琵琶塚古墳の東側に、姿川の旧河道も残っている。

陸地の水域は、川や水路など水が流れる動水、沼や池など水が止まる静水、湿地の3つに大別でき、桑地区では大小の動水、静水、湿地からなる水辺が、平地林や農地と共に水と緑のモザイクをかたちづくる。開発が進む中、こうした環境を求める生き物が地区に留まっている。

地下水をはじめとした水の利用と農業

宝木台地は、主に思川や鬼怒川が運んだ土砂からでき、その中を地下水が通っている。弁天沼や白鬚神社の湧き水「御神水(おみたらすい)」は、地下水を水源とする。

市内の台地の上には深さ7m未満の井戸が多く、桑地区では全体に分布していた。大きな川はなくても井戸水や湧き水、雨水が暮らしや農業に使え、人々は谷に田をつくり、高台には主に肥料や燃料を得る平地林を残した他、畑と樹園地を拓いた。平地林では、木々の枝葉や幹を雨水が伝い下り、表土に染み込んで水が養われた。やがて新田開発などのために水がより多く求められるようになり、明治期に機械揚水技術が導入されてからは姿川や思川から水が引かれた。

こうした桑地区の農業について、経営耕地面積(「令和4年度版小山市統計年報」)を参考に見てみると、地区の農家が経営する畑334.2ha、樹園地33.81haとも市内の地区中1位で、それぞれ市全体の約34.7%、約44.9%を占めている。樹園地には、果樹や庭木、山苗(林業種苗)が植えられる。

2 地域の自然について

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

蘭田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁
アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

図1 風土の定義

実際に地域を見て歩く踏査と、地域について書かれた書籍や論文に学ぶ文献調査を組み合わせ、地域の風土性について調査を行った。この調査は、はじめに「地域の自然について」、次に「地域の自然への人の働きかけについて」、続いてそのようにかたちづくられた「地域と人々の心身の結びつき」について、そして「景観から読みとれるその他のこと」を調べて記述する流れで実施した。

以下、その結果を市民への視覚的な説明にも用いられるようにスライドショーとして整理したものを、順に掲載する。図1には、再び風土の定義を示した。

出典 | 蘭田稔編『神道』(弘文堂、1988年、総372頁)。アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』(那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁)

なお、踏査は以下の日程で実施した。

10月08日(日) 東山田

10日(火) 出井・鉢形・向野

11日(水) 喜沢・東島田・三拝川岸・羽川

13日(金) 三拝川岸・扶桑・南半田・飯塚

28日(土) 喜沢・羽川・出井・荒井

29日(日) 鉢形・東山田・北飯田・萱橋・喜沢

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

桑地区は、小山市北部に位置し、

図2 小山市の地区区分と桑地区の位置

市域は、旧町村の区分に基づいて11地区に分けられ、当地区はその中央部南側に位置する。
出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

おおむね宝木台地上に立地するも、姿川が北西に。

図3 小山市と桑地区の地形。姿川の西側は、鹿沼台地の南端に当たる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

II 踏査および文献調査による報告

桑地区は、
13の大字名と
1つの町名(扶桑)で
呼ばれる
14の区域から
成り立ちます。

大字は、
江戸期の村を
前身とします。

出典: 国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)



図4 桑地区の大字名と町名

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

大字の範囲は、
おおそ川や水路、
これらが流れる
谷と谷の間の高台の
最も高い位置、
尾根に通された
道を境として
定められています。

出典: 国土地理院 | 地理院地図
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)



図5 地区の範囲に明治期の低湿地の分布図を重ねる。大字と地形の関係が見てとれる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

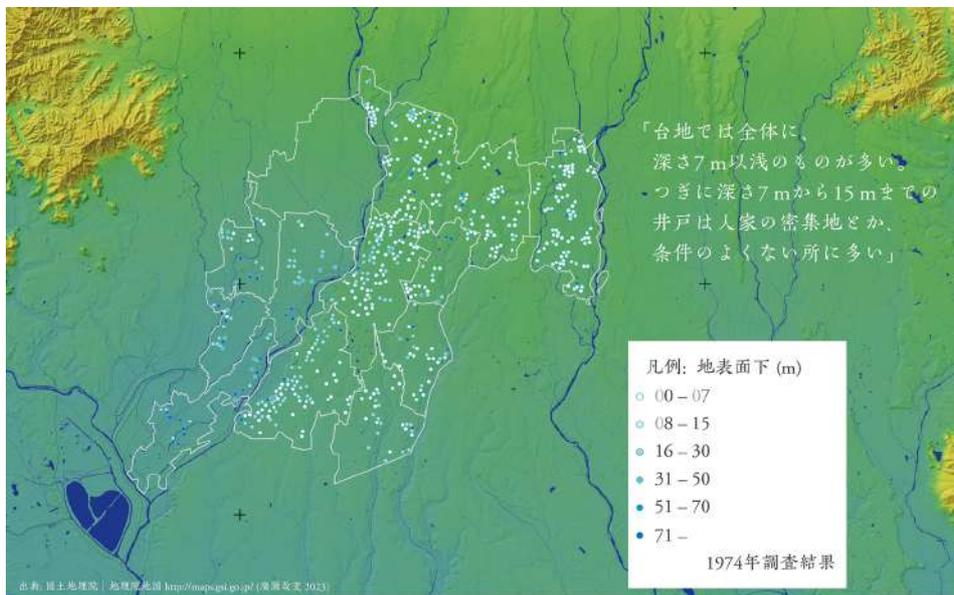
II 踏査および文献調査による報告



飯塚・南半田、三拝川岸・羽川、荒井、鉢形・北飯田の谷。 樹林と谷が折り重なる環境の基本形が桑地区に。

図6 西から東へと視点を移して、大字の境または中を通る谷のいくつかを見る。

各侵食谷に川や水路が流れ、谷を挟む斜面に樹林が残るさまを「樹林と谷が折り重なる」と表した。



「昭和49年(1974)に調査した家庭用地下水利用図」より

市内の井戸の分布。桑地区では全域に浅井戸が。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市, 1984年, 33-38頁

図7 昭和49年(1974)の調査からわかった市内の家庭の井戸と地下水位の分布。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市, 1984年, 33-38頁

II 踏査および文献調査による報告



白鬚神社の湧水。出井。2023/10/28 (左右共)。掘削した井戸から水が湧き出す自噴井に近い例として示す

「台地の表土の下にはローム層、
 その下には砂礫層があって
 地下水が流れる。
 その下の粘土層が不透水層となり、
 深さ7mより浅い井戸はその上の、
 深さ15mまでの井戸はその下の水を...



地層模式図

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、33-38頁

図8 白鬚神社の湧水（上段・写真）と宝木台地の地下水の垂直分布について

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、33-38頁



栃木県域は
 三つの河川流域圏に
 大別され、
 桑地区は主に
 鬼怒川・小貝川の
 流域に含まれます。

図9 栃木県の河川流域圏図。雨や雪が地表を伝い集まって川をつくる範囲を確かめる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

II 踏査および文献調査による報告



図 10 栃木県の河川流域圏と小山市周辺の台地の分布

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>

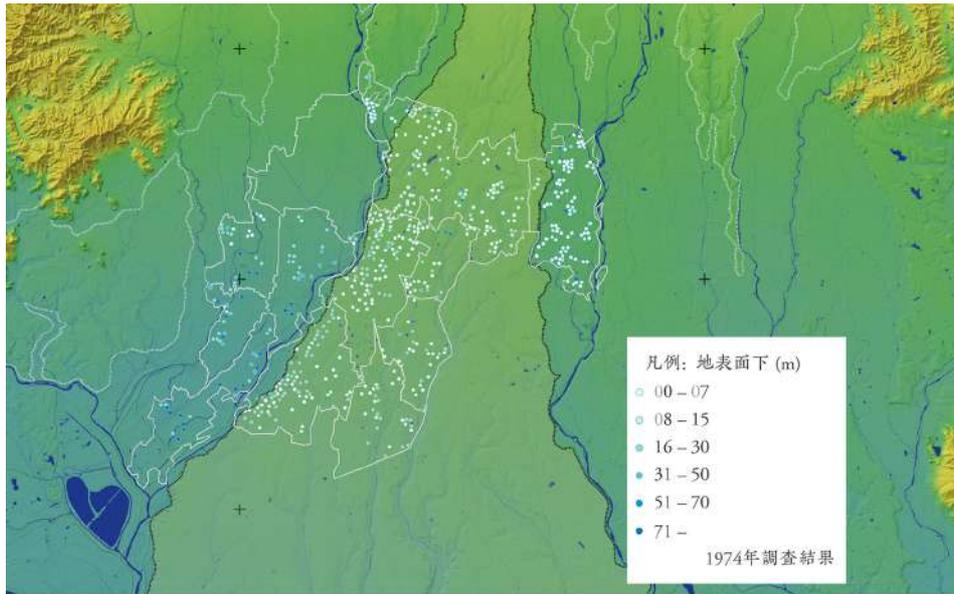
栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013年、20-28頁(廣瀬改変 2023)



図 11 栃木県の河川流域圏、小山市周辺の台地と自然公園、林業地の分布

出典 | 国土地理院 地理院地図、栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013年、20-28頁(廣瀬改変 2023)

II 踏査および文献調査による報告



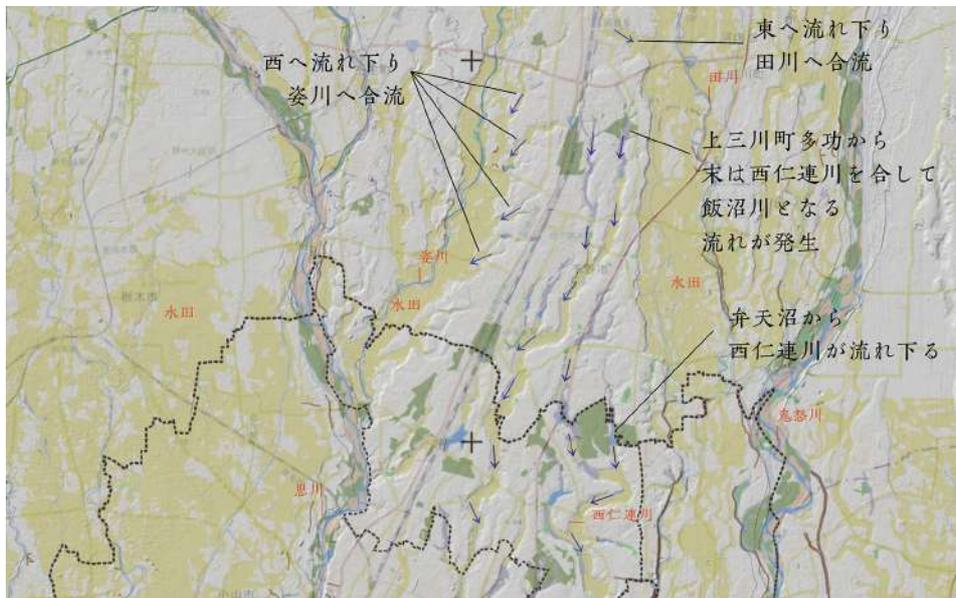
出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

台地が広がり、既存の谷に合さず新たに湧く水も。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、33-38頁

図 12 昭和 49 年（1974）に調査した家庭用地下水利用図を宝木台地の範囲に重ねる。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代・中世』小山市、1984年、33-38頁



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

台地が広がり、水は東西へ流れるだけでなく南にも

図 13 小山市北部周辺での宝木台地の東西の幅の変化と侵食谷の分布を見る

宝木台地は上三川町多功以南で幅が広がり、すぐに東西へ下りず南下する谷があらわれる。

出典 | 国土地理院 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>

3 地域の自然への人の働きかけについて

地域の自然への人の働きかけについて

「市域東部(中略)湧水または雨水によりかろうじて灌漑をおこなっていたが、これらの溜池のうちでも桑村の羽川溜(報告者註:大沼)および鉢形溜がやや規模が大きく、用水源として重要な役割を果たしていた以外には小規模なもので(後略)機械揚水の技術が導入された明治期以降、思川あるいは姿川からの引水が企図された」。

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、667-678頁

図 14 宝木台地の上での農業用水の確保に関する記述を読む。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、667-678頁



図 15 小山市内のため池、ため池跡の分布状況を確認する。

II 踏査および文献調査による報告

出典 | 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)



明治期の低湿地地図。桑地区範囲を拡大。出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

「台地を刻んで南へ開いている谷には、豊かな湧水があって湿地や沼を(中略)大沼や四つ沼も、かつては大きな湿地や沼地であったものを人工的に(後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、7-10、31-32頁

図 16 桑地区におけるため池整備の経緯、および谷の位置を見る

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、7-10、31-32頁



大沼。羽川。2023/10/28

山田沼(東山田沼)。鉢形、東山田。2021/10/22

鉢形四ツ沼公園。鉢形。2021/10/06

弁天沼。東山田。2021/09/15

大沼は喜沢-東島田間の谷につながる。弁天沼から西仁連川が流れ、山田沼と四ツ沼は同川の支谷に。

図 17 西から大沼、四ツ沼、山田沼、弁天沼の順に見る。

西から東へ視点を変えながら、桑地区のため池、ため池跡の状態を確かめる。

II 踏査および文献調査による報告



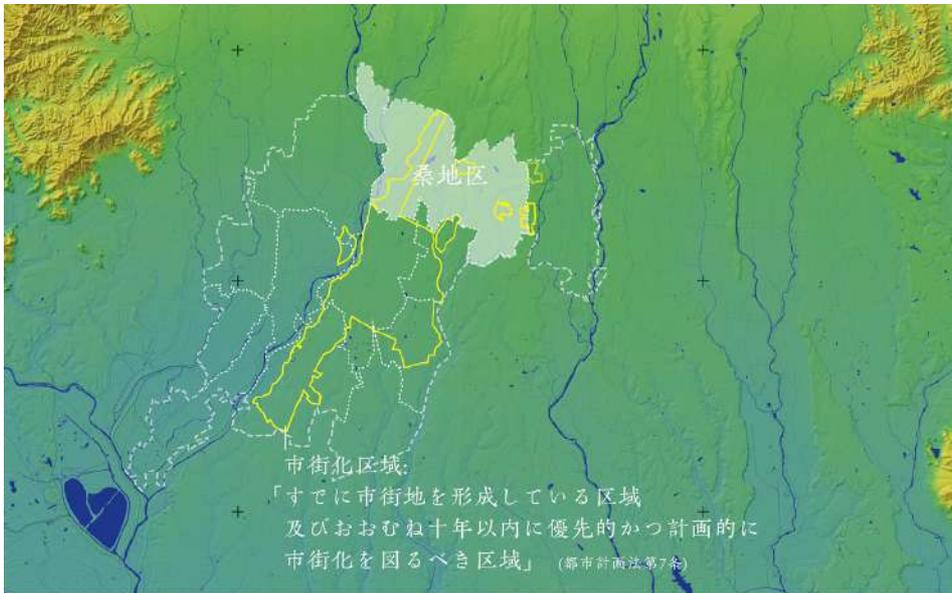
小山市立羽川小学校前、羽小桜通りから国道4号線を見る。羽川。2023/10/11。羽川の前身は日光街道の新田宿

「陸羽街道の宿駅や街道沿いの村々では戸数・人口とも多かった。(中略)街道から東方に隔って平地林の中に点在する台地上の村々では戸数・人口ともきわめて少なく」。 ※明治期に奥州街道を改称し陸羽街道に

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、187頁

図 18 小山市立羽川小学校前、羽小桜通りから国道4号線を見る。羽川。2023/10/11。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、187頁



小山市の市街化区域と桑地区の位置関係を確認する | 出典：国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (版源改定 2023)

日光街道沿いの宿・村と、工業団地で市街化が。

出典：総務省 | e-GOV | 都市計画法 <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=343AC000000100> (2022-12-09 参照)

図 19 小山市の市街化区域と桑地区の位置関係を確認する

出典 | 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/>

総務省 | e-GOV | 都市計画法 <https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=343AC000000100> (2022-12-09 参照)

II 踏査および文献調査による報告



図 20 古代の東山道、中世の鎌倉街道と宝木台地、現在の栃木県、小山市の位置関係

出典 | 野上道男『関東とその周辺地域の地質』『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年(廣瀬改変 2021)
小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年ほか



図 21 摩利支天塚古墳、摩利支天尊神社。飯塚、桑地区。2021/10/20

出典 | 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版、1998年、総 337 頁

II 踏査および文献調査による報告



図22 琵琶塚古墳。飯塚、桑地区。2021/10/20。古墳は、古代に西日本から伝わった。

 出典 | 文化庁 | 文化遺産オンライン | 琵琶塚古墳 | <https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/160748> (2021-12-20 参照)

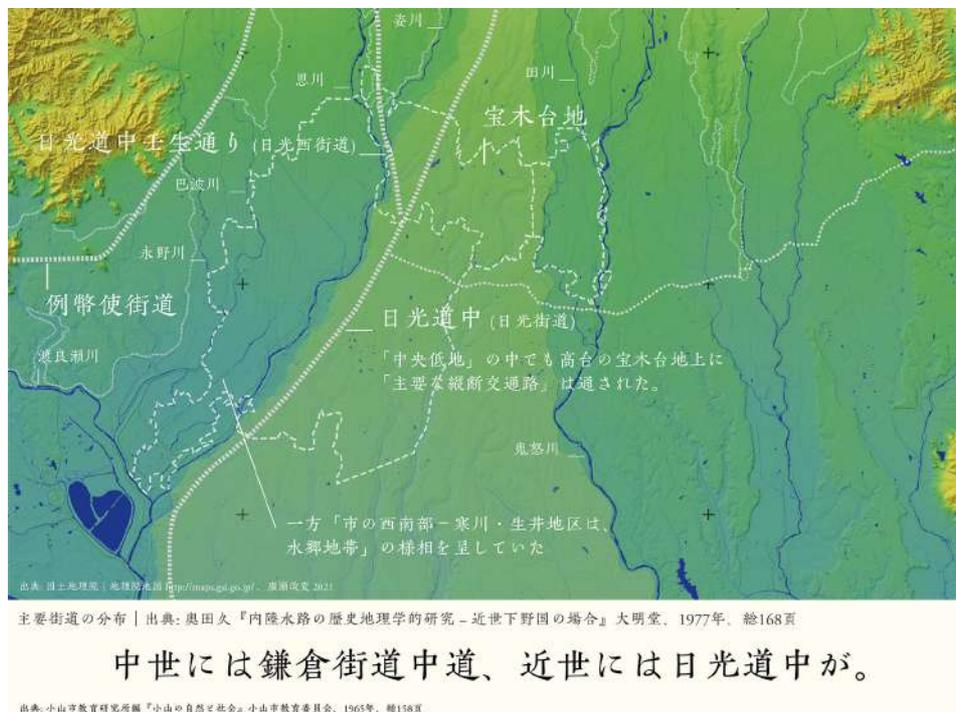
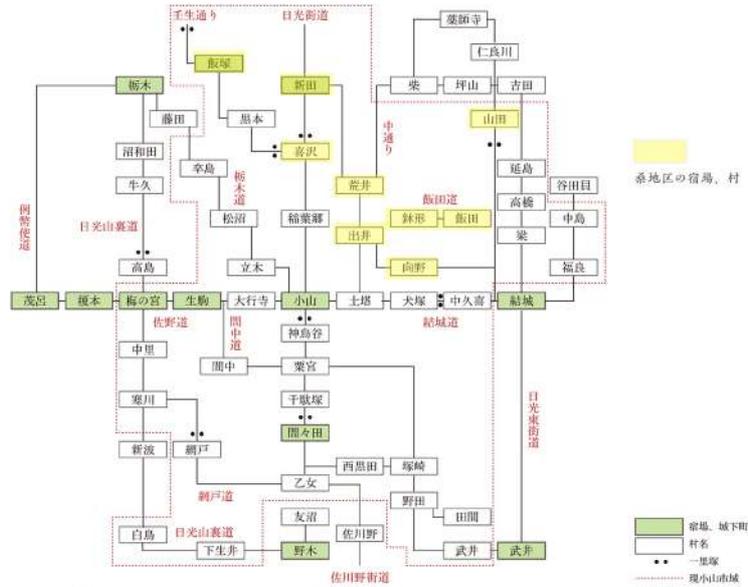


図23 小山市周辺の地形に主要街道の分布を重ねる。

 出典 | 奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977年、総168頁
 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁

II 踏査および文献調査による報告



日光街道(日光道中)と市域の脇道 | 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市, 1986年, 260頁

現市内には日光道中の脇道も数多く、桑地区にも。

図 24 日光街道 (日光道中) と市域の脇道

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市, 1986年, 260頁



日光街道西一里塚。旧日光西街道喜沢。2021/11/11

喜沢の一里塚。旧日光街道。喜沢。2023/10/29



「喜沢分岐点」。羽川。2023/10/29

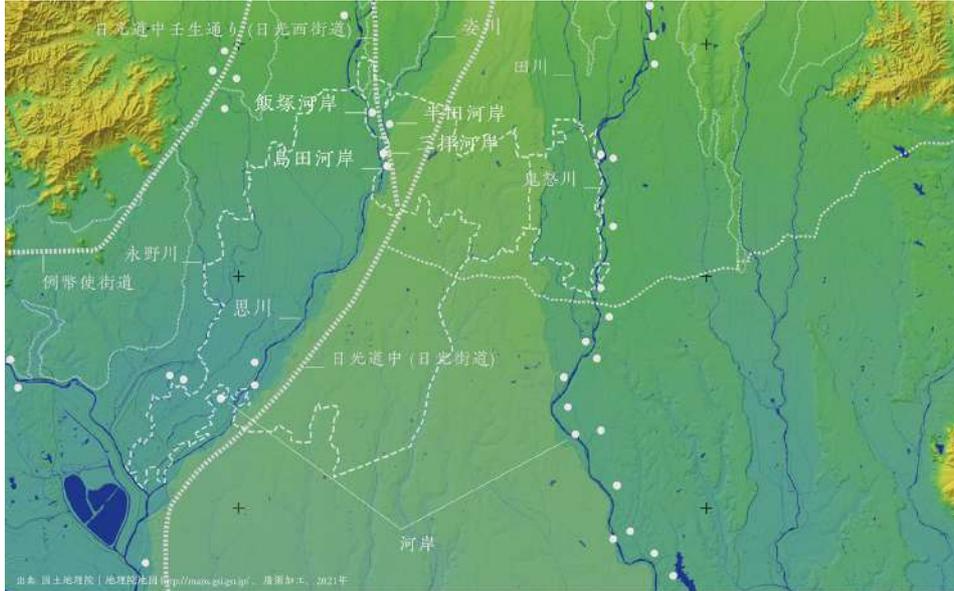
「天保6年(1835)、力士の歌ヶ濱斧吉が喜沢の追分に」

出典: 関正『小山市の野仏 No. 3 【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会, 2019年, 口絵説明文

図 25 旧日光西街道 (左上) と旧日光街道 (右上) の一里塚、および両街道の分岐点 (下)

出典 | 関正『小山市の野仏 No. 3 【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会, 2019年, 口絵説明文

II 踏査および文献調査による報告



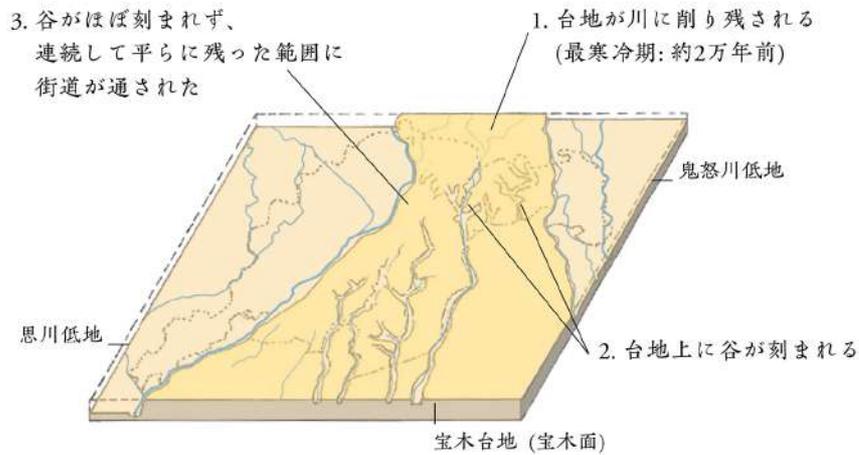
渡良瀬川、巴波川、思川、鬼怒川の河岸の分布 | 出典1: 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

河川交通も組み合わされ、桑地区には河岸が4箇所。

出典2: 町史編さん委員会編『図説 国分寺町の歴史』国分寺町、2000年、138頁

図 26 渡良瀬川、巴波川、思川、鬼怒川の河岸の分布

 出典 | 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁
 町史編さん委員会編『図説 国分寺町の歴史』国分寺町、2000年、138頁



台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023) *

日光道中は、台地上でほぼ谷を渡らずに済む箇所に通されました。谷の分布には「おおむね西北に高く東南に傾斜」した台地の地形が関係しています**

* 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁 ** 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I』小山市、1984年、667頁

図 27 台地上での侵食谷の発達過程を表わした概念図 (廣瀬 2023)

 出典 | 田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁
 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I』小山市、1984年、667頁

II 踏査および文献調査による報告



出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

日光街道筋の喜沢村、新田宿(羽川)は、市街化区域に

出典: 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総158頁

図 28 桑地区の空中写真に市街化区域の範囲 (図中の黄色の線) を重ねる。

出典 | 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年、総 158 頁



出典: 「日光道中絵図巻5 野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ https://www.digital.archives.go.jp/img/L/1603304_C00

「慶長期 (1596-1614) から元和期 (1615-23) にかけて
奥州道の開鑿にともない、道筋に集落が成立 (中略)
近世において新たに成立した集落は、いずれも
街道に面して直角に屋敷割がなされている (後略)」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、266頁

図 29 「日光道中絵図巻 5 野木宿より小金井宿まで」。 ※出典は次頁に示す

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986年、266頁

II 踏査および文献調査による報告



出典：「日光道中絵巻5」
2023/10/11

日枝神社境内を通る土塁の断面。国道4号より。喜沢。

「『木沢口』は、祇園城北の守りとして、『土塁や堀』で防壁化された軍事的な、『要衝の地』(後略)」

出典：伊澤昭「郷土 喜沢の話(1)」喜沢東部・中部・南部・北部自治会、2022年、3頁

図30 「日光道中絵巻」に描かれた土塁(左)と残存する土塁の現況(右上、右下)

出典 | 「日光道中絵巻5 野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/img.L/1603304> CC0

伊澤昭「郷土 喜沢の話(1)」喜沢東部・中部・南部・北部自治会、2022年、3頁

上記の伊澤昭「郷土 喜沢の話(1)」からの引用文を、別の文献を参照して補足する。関正(2019)は喜沢地名を、『角川日本地名大辞典 9 栃木県』(1984)からの抜粋を示して「喜沢」が中世から近世にかけて「木沢」と書かれたことを指摘している。「慶長15年11月本多正純の小山牛頭天王社領寄進状では木沢新田15石とあり」、「『元禄郷帳』では木沢村と見え220石余」などがその例である。慶長15年は近世、江戸時代に入った西暦1610年、元禄年間と同1688-1704年で、関同著にはまた寛延4年(1751)の「奥州道中 増補行程記」に「木沢村」と書かれていること、天保14年(1843)の「御成之節喜沢村御固絵図」はその題に「喜沢村」とあることが記されている。同じく天保14年(1843)の「日光道中絵図」でも村名は「喜沢村」と図中に書かれている。

伊澤同著、関同著については、次章「地域と人びとの心身の結びつき」でも紹介する。

出典 | 関正『小山市の野仏 No. 3 【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会、2019年、41、46、48、49、52、54頁

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表(近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html (2023-12-27 参照)

4 地域と人々の心身の結びつき

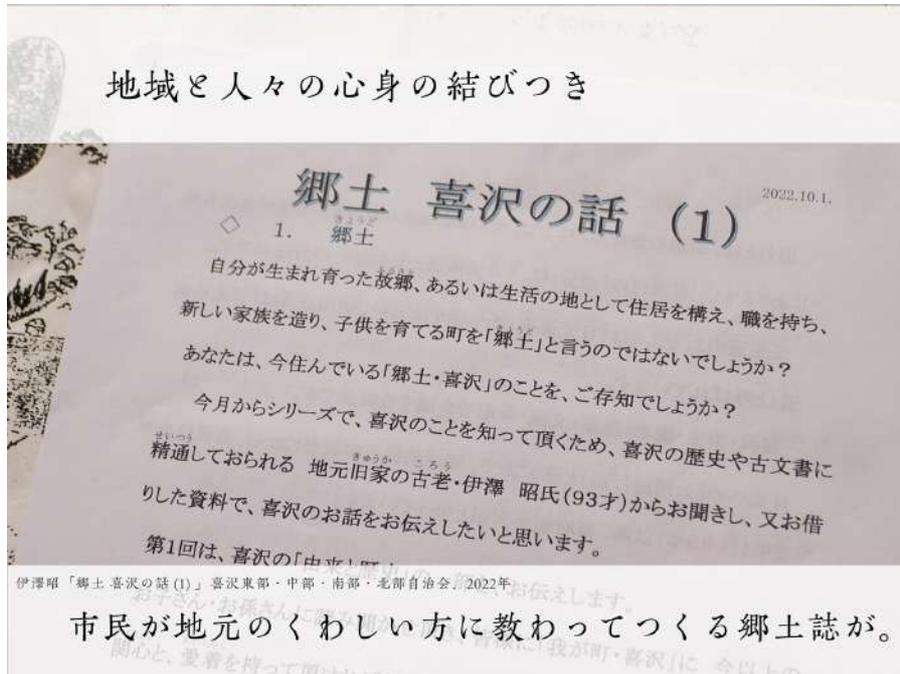


図 31 東部・中部・南部・北部の各自治会員向けに制作された「郷土 喜沢の話」。

出典 | 伊澤昭「郷土 喜沢の話 (1)」喜沢東部・中部・南部・北部自治会、2022年



図 32 住民自らが訪問地とコースを定めて制作した桑地区の案内地図。

出典 | 「桑西部・中部・東部 歴史・文化・自然散策コース 案内地図」桑地区わがまち発掘推進協議会

II 踏査および文献調査による報告



神明宮前。三祥川岸。2023/10/13 東島田子育て地蔵尊。東島田。2023/10/11 荒井公民館、正福院跡。荒井。2023/10/28

白鬚神社。出井。2021/10/19 薬王寺前。壺橋。2023/10/29 千手院跡。向野。2023/10/10

「桑地区の野仏総数は203基」。写真中の最古の例は、上段中央右の延命地蔵尊座像で享保12年(1727)造立。

出典: 関正『小山市の野仏No.3【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会、2019年、5頁。桑地区の野仏総数は2018年調べ

図33 野仏を建立、移設した由来からも地区の歴史がうかがい知れる。2018年調べ。

出典 | 関正『小山市の野仏 No. 3 【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会、2019年、5頁



栃木県道33号小山環状線南側の主要区画道路。羽川。2023/10/11 市道9号線南側に沿う「くらしの道公園」。羽川。2023/10/11

大字羽川の一部、南半田の一部を対象とした羽川地区まちづくり構想(面積約130ha)では、「既存の主要区画道路の改善」による「安全に歩ける使いやすい生活道路づくりと地区全体の回遊性の向上」などが図られています。

出典: 羽川地区まちづくり推進委員会「小山市地区まちづくり構想の概要(羽川地区)」2008年、1頁

図34 地区まちづくり構想に基づいて整備された羽川地区の主要区画道路と沿道の公園。

出典 | 羽川地区まちづくり推進委員会「小山市地区まちづくり構想の概要(羽川地区)」2008年、1頁

II 踏査および文献調査による報告



まちづくり推進団体「トンボの里 東山田上」メンバーとの合同踏査より(左:弁天沼。右:山田沼)。東山田。2023/10/08

東山田で行われる地区まちづくり活動は、
生き物が住む環境と農地の再生・活用などを基本に
弁天沼で草を刈り、大豆を作って味噌を仕込み、
ゴミを拾い...「各メンバーの特質を組み合わせる」

出典:「トンボの里 東山田上」メンバーとの合同踏査に際して行った聞き取り調査より。2023年10月8日

図 35 まちづくり推進団体「トンボの里 東山田上」メンバーとの合同踏査より
(左: 弁天沼。右: 山田沼)。東山田。2023/10/08

出典 | 「トンボの里 東山田上」メンバーとの合同踏査に際して行った聞き取り調査より。2023年10月8日



荒井団地有志の共同農場「地域の楽園」。荒井。2021/10/28

同左。2021/10/28

会員相互の交流、地域との交流、農産物等の提供、
ボランティア活動を、地域有志の共同農場が。

図 36 荒井団地有志の共同農場「地域の楽園」。荒井。2021/10/28

平成 26 年 (2014) オープン。耕作面積は約 1,000m² (300 坪)、会員は 12 名 (写真左の書面より)。

II 踏査および文献調査による報告



図 37 桑地区の各所で見られる果樹園を写す。

一般に気候が冷涼な地域で栽培されるリンゴから、熱帯各地で栽培されるパイナップルまでが見られる。



図 38 山苗の圃場の一つ。荒井。2023/10/28

スギが育苗される例。手前は、チャノキの栽培と防風、防犯などを兼ねた茶垣である。茶垣の奥にカキノキ、その樹下に半日陰でも育つミョウガ、サトイモが植えられ、果樹の樹下が有効に利用される。

5 景観から読みとれるその他のこと



図 39 小山北桜高校前の幅員約 9m の歩道は、同校内の圃場と共に園地的な環境を成す。

出典 | 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://mapps.gsi.go.jp> (2023-11-22 参照)



図 40 子供が遊べる公園の整備は、地区内のこれらの公園などを参考に行うことも考えられる。

出典 | 小山市・LLP 風景社「桑地区 風土性調査 アンケート・グループインタビュー概要報告」2023年11月24日、4頁



オオムラサキ harum.koh 撮影、CC BY-SA 2.0

アンケート回答(原本)にオオムラサキの生息地保全を訴える声がある。大谷北部・中部、南部地区でも2015年に生息が確認

出典: 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、32、36頁 ※オオムラサキは栃木県が準絶滅危惧種に指定

図41 栃木県が準絶滅危惧種に指定するオオムラサキ。harum.koh 撮影、CC BY-SA 2.0

出典 | 大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015年、32、36頁

景観から読みとれるその他のこと

「国蝶オオムラサキは昭和二十年頃までは小山市域でも普通に見ることができた。本種は近年極端にその数が減り、絶滅したと見られていたが、昭和五十七年(1982)に無線山で雄一匹が観察された。」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、110頁

図42 大谷各地区で2015年に生息が確認された同蝶は、市内では一度絶滅したと見られていた。

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、110頁

II 踏査および文献調査による報告



エノキ (部分拡大)。鹿島神社。北飯田。2023/10/29

エノキ (全体)。同左

「減少の原因は、幼虫の食樹であるエノキが少なくなったこと、幼虫の越冬場であるエノキの落葉が処分されてしまうこと、成虫の蜜源であるクヌギの減少の他、農薬の影響などが考えられる」

出典：小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、110頁

図 43 同蝶が食樹とするエノキの複数の個体を鹿島神社で見る。北飯田。2013/10/29

出典 | 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、110頁

地域の自然への人の働きかけについて

「結論として、オオムラサキの保護には、
幼虫の寄主植物であるエノキと
成虫の吸汁源として重要なクヌギ林が備わった、
ある一定面積の落葉広葉樹二次林を
生息地とみなし、これを伐期が異なる
小班に区分すること (輪伐) が必要と思われる」

出典：小林隆人・谷本丈夫・北原正彦「森林面積率とエノキおよびオオムラサキの生息密度との関係」
『保全生態学研究』9 (1): 2004年、1-12頁

図 44 オオムラサキの保護に必要な条件について書かれた論文より引用する。

出典 | 小林隆人・谷本丈夫・北原正彦「森林面積率とエノキおよびオオムラサキの生息密度との関係」『保全生態学研究』
9 (1): 2004年、1-12頁

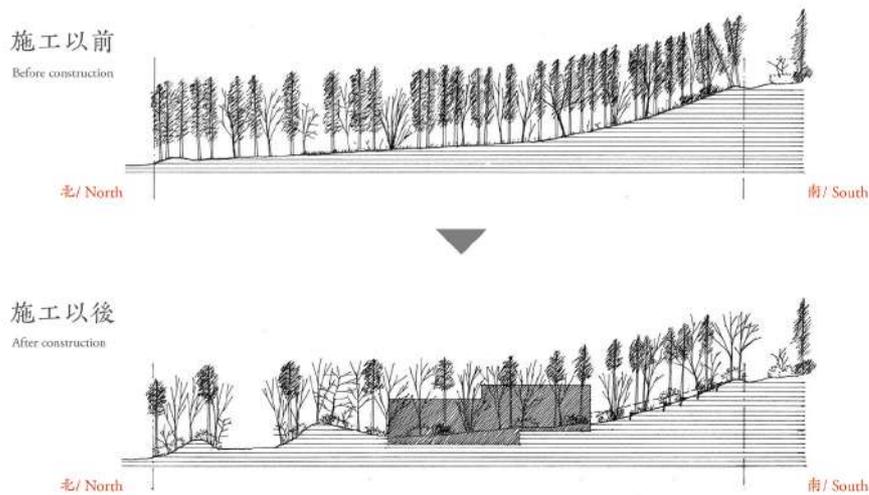


DNP創発の杜 箱根研修センター第2。神奈川県箱根町。2010/07/26

既存林を残しつつ整備された企業研修施設の例。
地域全体の持続可能性に照らした樹林地等の開発の
可否の判断が先決であるが、開発の方法の精査も...

図 45 DNP 創発の杜 箱根研修センター第 2。神奈川県箱根町。2010/07/26

富士・箱根・伊豆国立公園内の敷地で、放棄ヒノキ植林への施設建設に際して自然林の構成への林層
転換を意図した。建築範囲外ではヒノキを間伐し、そこへ建築範囲から広葉樹を移植した（下図参照）。



植生回復計画図/ Revegetation planning

1: 放置林の生態系修復 - 生産林からの植生回復-

施設整備を契機として放置生産林から地域系統植生への林相転換を図る

Drawing: Tiga and Hirose Landscape Architects Partnership

図 46 DNP 創発の杜 箱根研修センター第 2。植生回復計画図

II 踏査および文献調査による報告



番いど見られる二羽の鳥。山田沼。東山田。2023/10/08

ミゾゴイ営巣中の様子。出典: Kogado (2013) CC BY-SA 3.0

山田沼の上空で、赤みがかった薄茶色の鳥が二羽飛ぶのを見ました。首を上へ折り、頭を体に載せる飛び方が首の短いサギ類に見え、大きさや色から低平地の森林で繁殖する水鳥ミゾゴイではないかと

Source: https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Gorschius_gorschii_1.JPG 田ミゾゴイは絶滅危惧I類に指定

図 47 桑地区には、その他の稀少な生物の生息の条件を満たす環境も残るようである。

出典 | 環境省 | ミゾゴイ保護の進め方の公表について (2016/06/13) <https://www.env.go.jp/press/102646.html>

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB <http://tochigi-rdb.jp/> ※ミゾゴイは絶滅危惧 I 類 (県カテゴリー)



コンクリートを用いて整備された水路。飯塚。2023/10/13

同じ水路で淡水魚2種を写した写真を部分拡大する。2023/10/13

ミゾゴイは、ほぼ日本のみで繁殖する渡り鳥で、国際的な保護が持続社会の実現に求められます。桑地区では直線化された水路にも魚類や甲殻類、貝類等が生息し、同じく人の便益確保のために…。

図 48 コンクリートを用いて整備された水路に見られる水生生物の例。飯塚。2023/10/13

「人の便益」について参照 | 『国連ミレニアム エコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』オーム社、2007年

Ⅲ 簡易社会調査による報告

1 目的と実施概要

1-1 目的について

桑地区で暮らす人々の生活や意識をできる限り実情に近いところで把握すること。特に、過去と現在の生業や生活の様子、地域をどのように認識しているか、桑地区で暮らしながら、大切に守っていきたい地域の宝や、逆に解消したい困りごとなどについて、どのような考えを抱いているかなどについての把握を試みる。また、それらの関係性を読み解くことで、桑地区および小山市域全体での田園環境都市おやまビジョンの手がかりを得ることを目的とする。

1-2 実施概要について

令和5年8月から令和5年10月にかけて、下記の2種類の簡易社会調査を行った。

- ①座談会形式のグループインタビュー
- ②無作為抽出による2500世帯への郵送によるアンケート

自治会への説明や広報周知は下記の通り。

- ・6月19日：自治会長会議の後に時間をいただき説明会を実施（桑公民館にて）。郵送によるアンケート調査の説明と、選択肢（案）についてのご意見を伺う。
- ・広報おやま8月号の回覧時に：田園環境都市推進課より「風土性調査に入る」ことの説明と周知

1-3 座談会形式のグループインタビューについて

(1) 特に考慮したこと

アンケート調査では、本調査で立てた目的達成のためには、設問や提示する選択肢が、住民が「日頃考えていること」「伝えたいこと」「語りたこと」に沿っているかが重要になる。そこでグループインタビューを先行して行い、そこで語られたことをもとに、アンケートの質問における選択肢を設定することを基本としている。スケジュール的に一部のインタビューがアンケート作成には反映されない場合もあり、自治会長を対象とした説明会において、地区での困りごとや大切に守りたいものなどについてご意見を聞かせていただいた。

(2) 実施時期と対象者について

次の3つのグループで実施した。

- ①自治会長の皆様：9月6日
小山市自治会連合会桑支部より、現在、自治会長を勤めている方から出席可能な方、60代70代の5名に依頼。当日は4名が参加
- ②子育て世代の皆様：9月13日
桑地区こども会育成会連絡協議会より、小学生・中学生・高校生のお子さんがある家庭から女性6名および連合会会長の男性1名、合計7名が参加
- ③農業従事者の皆様：9月26日
50代から70代の専業農家の方、男性4名、女性1名の計5名が参加

(3) 全ての聞き取りにおいて、共通の質問内容

- ①自己紹介として～桑地区とのご縁、仕事や地域での活動、生活圏について
- ②地区の昔と今。変わったこと変わらないこと

- ③地区で暮らすなかで感じる、解消したい困り事
- ④地区の大切に守り、未来につなぎたいもの
- ⑤都市部と田園部は、これからどんな関係を築いていくと良いか等、これからの小山市のまちづくりへの意見

以上に加えて、それぞれのグループの特性に即した質問(子どもたちの帰宅後や休日の過ごし方、農業の今と昔、など)を加えて聞き取りを行った。

また、踏査において、東山田上自治会の会長はじめ自治会の皆様 10 名に地区内のご案内いただきながら話を伺えたので、その記録も踏査時の聞き取り記録として掲載する。

1-4 アンケート調査について

(1) アンケート調査(紙の調査票)

実施方法 1

- ・無作為抽出により 2,500 名を対象に郵送で実施。
- ・8 月 29 日に発送し、9 月 30 日を締切とした。

実施方法 2

・紙の調査票の郵送と並行して、対象世帯以外でも回答をいただける場合の受け皿として、回覧チラシで告知を行い、インターネット(グーグルフォーム)での調査も実施し、10 月 15 日を締切とした。

・郵送の対象世帯でもアンケートに回答した方以外の家族も回答いただける場合の受け皿としても想定し、郵送に際し QR コードを記載した依頼書も同封した。

回答数

- ・724 件

内訳：郵送による回答：630

インターネット回答：94

- ・郵送での回収率 25.3%

宛先不明での戻り 12 通を除外した 2488 を母数として算出

- ・集計有効数：706 件 締め切りを大幅に過ぎて届いた等の 18 件を除外して 706 件で集計

集計結果を、「小山市桑地区アンケート調査 集計結果報告書」にまとめ別添資料とした。

2 結果整理の手法について

グループインタビューにおいては、下記の 3 種の記録を作成し、③を本報告書に掲載している。

①書き起こしデータの作成

②個人情報を残した形で、座談会の時系列に発言内容をまとめたもの

③個人情報を抜き、発言内容を、時系列ではなく、いくつかのテーマやトピックごとに編集した記録。発言内容に関連した史実や、少し曖昧な記憶に基づく参加者の話を裏付ける記録などを、脚註の形で、各種文献から転載し補足する。

アンケート調査については、単純集計と、主要な質問において属性との相関をみるクロス集計を行った。概要版を次章の調査結果に掲載し、全データは、別添資料(アンケート調査集計結果報告書)に掲載する。

グループインタビューと、アンケートの結果については、個々の検証に加えて、得られた情報の関連性などを読み解き、ビジョン策定に向けた報告会やワークショップなどの基礎資料として活用していく。

3 各調査の結果報告

3-1 グループインタビューの記録

この章ではグループインタビューで行った聞き取りの成果を、開催順に掲載する。初めに、語られたことを概観するために各回記録の見出し一覧を掲載し、次に各調査で語られた内容を掲載する。

1 | 自治会リーダーの方々

- 1 : 参加者の自治会の概況
 - 飯塚自治会
 - 喜沢中部自治会
 - 生井住宅
 - 羽川自治会
- 2 : 農村地帯としての問題
 - 課題が多い農村地帯
 - 桑畑・カンピョウ 栽培の激減について
 - 平地林
- 3 : 住民の活動が活発な桑地区の特性
 - マルベリー館建設の懇話会をきっかけに
 - げんきフォーラム桑の農産部門
- 4 : 地域コミュニティの課題と可能性
 - 新住民との関係、地域の祭りや行事
 - 子どもたちへ残す体験を
- 5 : 未来に残していきたい大切なもの

2 | 子育て世代の方々

- 1 : 子どもが通う小学校の規模
 - 羽川小学校
 - 萱橋小
 - 羽川西小学校

- 2 : 育成会やPTAの活動
 - 規模や人数の差による運営上の問題
 - 薄れていくコミュニケーション
- 3 : 生活の利便性について
 - 桑地区の地理的位置
 - 日常生活での困りごと
 - 治安について
- 4 : 未来に残していきたい大切なもの

3 | 農業従事者の方々

- 1 : 参加者の営農などの概況
- 2 : 桑地区ならではの農業や栽培作物の変遷
 - 牛の肥育
 - 山苗と養蚕
 - 桑苗と養蚕
 - 養蚕が廃れた後の野菜栽培
- 3 : 桑地区での課題
 - 世代的な差異
 - 新しい住宅に住む方からの苦情
 - 遊休農地の問題
 - 経営上の課題
 - 後継者問題
 - 担い手不足ではなく土地あまりの状態
 - 集まって話す機会がない
- 4 : 農村部と都市部との繋がりについて

4 | 東山田上自治会

- ◎人口と世帯数 ◎弁天沼と西仁連川 ◎山田神社 ◎農地と風景の変化 ◎北桜高校 ◎山田沼 ◎空き家の問題 ◎ホテル

1 | 自治会リーダーの方々

参加者：4名(男性4名)。生まれも育ちも桑地区の方や、小山地区で生まれ育ち結婚と新居購入を機に桑地区に移った方、定年後に自治会長を引き受け、様々な地域活動を行っている方々。

実施：2023年9月6日 18時～19時30分

場所：桑市民交流センター（マルベリー館）

1：参加者の自治会の概況

飯塚自治会

◎思川がある川べりの地区の自治会長です。飯塚というところは桑地区でも一番地で、農村地帯で田んぼがあって、川に囲まれている。思川と姿川が合流する地区。国指定の古墳が二つ、摩利支天塚古墳と琵琶塚古墳があり、昔から人はそれなりに住んでいたようなところ。

◎飯塚は江戸時代は宿場町として栄え、屋号のあるお宅も多い。

◎今は純農村地帯として、田んぼが広がり畑もあるが、専業農家は減って、耕作していても兼業で勤め人も多い。農業を全くやっていない人も多い。

喜沢中部自治会

◎喜沢は四つの自治会があり、喜沢の分岐点を中心として、東と北と南と中部ということで四つに分かれている。線路から東に関しては田畑が多くて、喜沢の南部と中部に関しては商業地区か工業地区が半分以上を占めている。

◎いろいろな地方や都会から引っ越してきた方が次第に多くなり、防災防犯に関する心配の声も出てきた。敬老事業や自主防災会も立ち上げて3年。コロナ禍で全然活動ができなかったが、今年からは9月10日に自主防災訓練を実施。安心安全を第一に考えた自治会運営を行

う。

生井住宅

◎桑地区西部にある住宅団地の自治会。五十数年前に、祖父たちの代が山（平地林）だったところを半分開拓して、戸建て住宅を約40棟、集合住宅（アパート）を2棟建てた。桑地区の中でも、舗装道路ができたり景観が変わったところもあるが、ここは、ほとんど景観が変わっていない。ほとんどが山と畑。

◎住人も高齢化し、独居老人が多い。7、8年前から心配になり、大家でもあるので家賃の集金など、面談という形で話を聞きながら接している。

羽川自治会

◎羽川は10の自治会に分かれていて自治会に入っている人が2200人ぐらい、入らない人を入れるとアパートなども含めて所帯としては3000戸ぐらい。昭和の初めごろは、50数世帯しかなかったところ。どんだん家が増えてきた。

◎祭りも続いている。他のところと違って羽川は神社が作ったお神輿ではなく自治会が作ったお神輿。自治会の人汗をかいて作ったお神輿。地域をなんとかしよう、子どもに楽しんでもらえるようなことをやろう・・・という考えが昔からある地域。そういう気持ちが伸びていくことを通して、羽川のまちづくりは、道路建設や地域が抱える問題など専門的なことは行政にやってもらっているが、あくまでもその上に自治会があり、自治会が主体でまちづくり、ということ。やる気さえあればなんとかできるかなと思っている。

2：農村地帯としての問題

課題が多い農村地帯

◎米は価格が低いから採算が合わない。肥料代

が上がり、耕作放棄地もさらに増えて、イノシシやシカなども川を伝って入ってきているので、獣害対策も必要になる。

◎住んでいる住民の出入りは少なく、超高齢化地区で若い人は少ない。市内ではあるが、過疎といえば過疎のような場所。若い人が住むには便利ではない。どこへ買い物に行くにしても遠いという状況がある。若い人から見ると山里のような感じがするのではないか。

◎桑地区内でも羽川、喜沢とかと、その周りの農村を主体とした地区では、悩みも少し違ってくるはず。農村部分には農村部分の過疎についての対策はしていかないといけないと思う。地区でできることと、行政とか国とかでやる方針と、なかなかマッチングしていくのは大変だが、その中でもできることをやっていくしかない。

桑畑・カンピョウ 栽培の激減について

◎桑地区の景観の変化では、養蚕業の衰退に伴う桑畑の減少がある。また、昔はカンピョウ（ユウガオ）を栽培し、納屋の下屋でカンピョウ剥きやカンピョウ干している風景がどこでもみられたが、それも最近はほとんど見なくなった。

◎国勢調査で何回かその地区を回っていて、一軒一軒減っていく様子を見てきている。今は、桑の木を取ってしまっただけで、放棄地までいかなかったが、ただの畑地という状態。今後はその管理ができなくなると、どうなるのか心配でもある。

◎生井住宅に隣接する東島田でも、高齢化に伴い、桑畑をやめた、作物を作るのをやめた・・・で、緑がない土だけの風景になってきている。

平地林

◎桑地区の山（平地林）もずいぶんなくなったが、小山ゴルフ場からずっときた北に約500メートルくらいまで、通常の山林がまだ残ってい

る。その辺をなんとか維持したい。子どもの頃、まだ橋が無い時代だから、思川の向こうの人たちが舟で渡ってきていた。向こうには山がないということで、家の風呂や台所の薪を調達に来ていた。木の葉とか枝を背負って渡し舟で帰って行っていた。

◎エネルギー問題も大変な状況だが、100年後、200年後、場合によっては日本が例えば大災害にあたりして、昔の生活に戻らざるを得ないことになるかもしれない。せめて平地林だけでも未来の人たちには残してあげたい。

3：住民の活動が活発な桑地区の特性

マルベリー館建設の懇話会をきっかけに

◎十何年も前、桑地区の人はこの建物（マルベリー館）をどうするんだというときの懇話会をきっかけに、みんな積極的に話をするようになったのではないかと思う。市会議員の人もいたし職員もいた。その中でもやはり地域の人の発言は非常に重くて、こういう立派な建物の建設につながった。

◎地元のこういう建物の維持管理は、地元の人がやらなくては駄目だという意見も出した。今、NPO（げんきフォーラム桑）でここの運営管理をやっている。今は高齢化もあるので人数は7～80人に減ってきたが、一時は100人ぐらいの会員がいた。会費を払ってまで協力するというのでやっている。

◎よその地区より元気があるというわけではなく、いろいろな意見が言いやすい地域なのかもしれない。それでいろいろな事業が積極的に行われているというのが桑地区の特徴だと思う。

げんきフォーラム桑の農産部門

◎NPOでは、ここの出張所の仕事で場所の貸し出しなどの業務と、古墳の資料館関係。それから最近では、放棄地になろうとしていた畑を

活用して農産部という形で農業活動も行っている。

◎畑で、玉ねぎ、にんじん、じゃがいも。

◎それに加えて、今年はカンピョウ（ユウガオ）。初めてやってみたら出来て、5000玉もとれた。売り先も、最初に1個いくらで買いますと約束してくれていたの、結構いい金額の売り上げになった。

◎桑地区は農業地域なので、耕作放棄地が増えていく中でもう少しテコ入れしていきたい。年寄りが1日2時間しか働けなくても、生産活動に参加出来て、少しでも販売していければ良いのではないかという考えで、いろいろなことを考えてやっている。

◎ある研究機関と提携して南瓜の種を採って提供するという事もしている。南瓜は収穫してそのまま置いておくと身はまずくなるが種は太っていく。3年くらいかかり手間がかかるが。

◎エゴマも栽培して、エゴマ油を道の駅で売っている。

◎この辺りのエゴマ油では、一番濃いと思う。関東近辺と長野とか、あちこち行ったときに必ず買ってきて飲んで比べている。毎日小さじ1杯飲むと体にいいと言われている。

◎NHKの番組で言われていたのは、朝食の後にエゴマ油を飲んでおけば、高血糖で死ぬことはないということ。

◎うちのは一番搾りだから少し値段も高めになる。

◎エゴマづくりが農業活動の最初だった。なにを作ろうかとみんなで協議した時に、90歳になるお年寄りが、エゴマが一番体にいいからエゴマをやったらどうだと意見を出してくれた。

◎それから同時期くらいでマルベリー（桑の実）も始めた。実をみんなで摘んで、ワインを作ってもらった。結果、桑の実は糖度が足りなくて砂糖を混ぜないと駄目、ブドウのような味にはならなかった。

◎何かやってみようかとノリよくやってみなくちゃ駄目、何も始まらない。「いやあ、そんなのやったって・・・」と言うと、なかなか進まない。「あ、いいね、やってみようよ」と。それが大事だと思う。

◎大沼親水公園の草刈りや手入れもやっている。朝5時とかから草刈りをやっているが、それに10人も15人も出てきてくれる。

◎大沼はみんなが大切にしている。池の周りは1.4キロだが、健康のために歩く人も走る人も。夕方、私は仲間と夜走っているが、夜になると何人か走っている人が増える。学校帰りの中学生、高校生が走っていることもある。たまに土日に行くと、高齢の家族が乗った車椅子を押し家族づれもいるし、天気の良い時に、お母さんとお父さんを連れてきて、そこで何か買ってきて食べている家族もいる。いい光景をいつも見る。

◎大沼では桜まつりを提唱して飾り付けもしている。NPOができる前から続いているのは、1月1日、元旦の朝6時に大沼に集まって、ちょうど筑波山の谷間から登る朝日を見る。甘酒とかみかんを用意して・・・。みかんは200個は用意しているが、いつも無くなるから、200を超える人が集まっていると思う。

◎げんきフォーラム桑が出来て6年（平成29/2017年設立）。初めはエゴマと桑の実だったが、次第に耕作しなくなった畑を子どもが継いでくれないのでどうしたら良いかと会長に相談があって、そういうところを活用しようと始まったら、それが増えてきて、あっちの畑もあっちの畑もで、じゃがいも、玉ねぎと増えていって、今年はカンピョウができた、ということ。

◎ひとつやると発想がどんどん連鎖的につながっていく。だから、最初の一步を踏み出さないと駄目。いい悪いでなくて、やってみなくちゃわからない。駄目だったらやめればいい。

◎どんな人がNPOの会員になっているかというと、基本的には、みんなリタイアした人、退職した人で、時間や体を持て余している人。何かをしたいのだけれど何をしたらいいのかわからない。ということで、餅は餅屋で、パソコンをいじれる人はここで貸館業務関係。少しぐらい汗かいて孫への小遣いぐらいつくりたいというなら農作業。それぞれ、退職した後の身の振り方も、NPOが受け皿になっている。

◎小山市は、一人1スポーツを提唱している。これはつまりずっと健康でいて、なるべく社会保険料を使わないようにということ。桑地区でのシニアや高齢者の活動も、そういうことに近い。マルベリー館に来たり、活動にすれば、来ている人と話もできるし気持ちも健康になる。そういう意味でやはり、受け皿になっている。今後は、もう少し人数を、そして作業環境も増やしていきたい。

4：地域コミュニティの課題と可能性

新住民との関係、地域の祭りや行事

◎住宅団地などが出来て、新しい住民の方たちも増えている。自治会にしても防災会にしても、どういう考えでどういうことをしているか、説明が大事。説明に出向くことが必要で、たまに説明会などもやる。

◎うちの自治会では、転勤で埼玉から引っ越してきた30代の方が通勤の時間が今までより短くなって時間が少し出来たからと、消防団に入ってくれて、班長もやります、と。そういう人が一人でも出てくると地域にもいい刺激になる。

◎後は行事のたびに、反省会をやる。反省と言っても一緒に酒を飲んだりご飯食べたり。そういうことが地域づくりでは絶対に大切。

◎9月には敬老会、10月には羽川連合の運動会をやってきた。いろんな人に参加してもらうには、運動会という名称も変えたほうがいいとい

う提案をして、運動会とかカッコ悪いから。昨年から、オータムフェスティバル2023。夏祭りはサマーフェスティバルになった。8月末の日曜日に縁日をやって、子どもを集めて、金魚や射的や、いろいろなゲームをやって昼過ぎから5時ぐらいまで遊んだ。

◎運動会は、飯塚もやっていたけれど30回ぐらいやってやめた。マンネリ化してしまった。そのころで世帯数が150戸だから難しい。

◎専業にしる兼業にしる農家が多いので、農家の昔の人は休みがないから、難しい。桑でも自治会によって、世帯数も規模も違うから。

◎羽川は1000人ぐらい来る。

◎行事も村おこし町おこしの類。戦後なんにもなかったときから暮らしがよくなってきて、余裕が出てきた頃から、そういうレクリエーションもやりたいという流れになった。飯塚や他のところでも祭りは一時途絶えてしまっていた。お囃子はやるけど神輿は出さないことも。ちょうど私が会社へ19で入った年から神輿を新調して祭りをやってずっと続いてきたけど、神輿は置いていくだけになった。担ぐ人がいなかったり、マンネリ化だったりで。

◎祭りもほぼ同じメンバーで30年ぐらいやると、みんなもう疲れてくる。結局、あとがない、人手がないから。20歳だった人はいいけれど、もう70近くになるのに自分たちが担がないとできないような状況になってしまうと、もう無理だなということ。お囃子は若い人がやってくれているけれど、若い世代も人数がそれほどいないので、担ぎ手は足りない。いわゆる過疎地のようなもの。だから、神輿を車に載せて回ってやるとか、簡略化しないと祭りもできない状況。

◎盆踊りも飯塚だけでやっていた時期がある。櫓を大工さんに作ってもらって。今の団塊の世代の人たちが引っ張っていた。働いているだけではエネルギーが余っていたような印象でパワ

一があった。その人たちは自分とは10歳以上離れていて、先輩がやるから我々もついていこうとやっていたけど、後ろを見たら、自分たちの下の世代は一人二人しかいなかった。ついてくる人がいなくなった。

◎団塊の世代は人数もいたから勢いも良かった。

◎小山市で一時80基ぐらい山車があった時代がある。小山遊園地でお囃子の関東大会があつてうちの地域は楽譜まで作って2年連続で優勝した。しかしその後コロナもあつて、お囃子の子どももどんどん辞めていった。それで、10年くらい前に3つの自治会が集まって、地域の祭りに合わせてお囃子をやるようになった。それがコロナまで続いていた。

◎関東大会にはスポンサーが付いていた。

◎少し前は、みんなで楽しいことをやろうよという同じ意識があつた。でも今は、皆それぞれが自分のやりたいことをやるという時代になってきてしまっているから。昔はコンビニだつてなかった。どんな田舎でもいろんなお店があつた。でも今はコンビニしかないし、車で大型店舗へ行ってしまうから、地元も廃れて寂れてしまう。だから、活気や勢いみたいなものがなくなってきてしまう。農村地帯だけではなく、街の中でも、たぶんそうだと思う。田舎はずっと変わらないけど。

◎東京でも盆踊りも盛んにやっているようだが、逆にこの辺では盆踊りは難しいようだ。羽川もずっとやっていたが、やめた。見ている人はいるが、踊る人がいなくなってきたから。だから面白くない。それが時代に合わなくなってきたのなら、他のものを何か考えるしかないのでは。

子どもたちへ残す体験を

◎祭り、盆踊りではないが、国の制度の農地水で「生き物調査」をやっている。幼児から小学

生、中学生まで参加して欲しいので、図書券でつっている。普段は交流の機会がないお父さんお母さんも参加してくれるので、お互い知り合う良い機会になっている。これを長年続けていけば、先の将来に、子どもたちも思い出してくれると思うし、何かしらプラスになると思う。

◎そういうことは個人ではできないから。地域でやる意味がある。

◎東京ディズニーランドへ行けば、楽しくてもっとサービスがいいやつはいっぱいあるのだけれども、それでは体験できないような楽しさも地域での行事にはある。やっているときは楽しいので、子どもたちの貴重な体験になっていると思う。

◎地域の活動が、何らかの形で、途中で途切れたりしたとしても、子どもの頃に体験したことは、将来大人になってから「あんな風にやってくれていたな」と思い出してくれるはず。

◎そういう記憶に残ることをやらなくちゃいけない。

◎もうひとつ、どんど焼きもやっていた。私たちが組み立てて、学校に案内を送って、通学圏の人は誰でも来ていいですよというので案内していた。食べ物も用意していたが、コロナ禍になって、お父さんお母さん、学校のPTAの人たちの意見を聞いたら、あまり乗り気ではなく中止になっている。それに代わるものというので今はさつまいも掘りをやっている。

◎若い人の考え方と、私たちが考えて、よかろうと思ってやろうとしていることは、やはり多少ギャップがある。

◎今の子どもたちは田植えをしたり稲刈りをしたりというのは、学校の授業の中でやっているところも多いが、プラスアルファで地域の伝統のどんど焼きとかというのがあってもいいと思うが。

◎どんど焼きとかというのは、やはり年寄りの案なのではないか。それを押しつけても駄目だ

と思う。ひとつの例として、30代から50代くらいのお父さんお母さんに検討してもらって行事をやったのが射的や金魚すくいとかの縁日。参加申し込みを取ると140人くらいだったところ、当日は190人が集まった。幼児もとても楽しんでいて。これは5回も6回も会議を続けているが、そういう土台が作れると良い。

◎うちの自治会でも、やはりそういうふうに5回も6回も会議をやって幼稚園を会場として借りてヨーヨー釣りや金魚すくい、機械を借りてかき氷なども提供していた。育成会にお願いして開催していたが、いつの間にか、子どもを連れて映画を見に行く行事になってしまった。それはそれで良いと思うが、みんなで作った祭りを地域の子どもが楽しむという貴重な体験は無くなってしまう。

◎やはり楽なほうに楽なほうに変わっていくのは、そういうものかもしれないが……。うちでも栃木市のある町内が持っている大きな神輿と賽銭箱を譲ってもらうことになっていた。地域で子どもたちに担がせようと。しかし「昔、喜沢の人が疫病がはやったので神輿を思川に流したという歴史もあるんだから、今更そういう神輿を担ぐ行事などをやる意味はない」という考えの人もいて、話が進まず、断った。しかし、旧家の方が何人か「いや、そんなことは関係ないから、神輿は譲り受けたほうが良い」と助言をしてくれて、一回は断った栃木市の町内に「すみません、一回断った神輿をいただきたいのですが」と頼みにいったら、神輿は違う自治会にあげてしまった。賽銭箱ならある、と。そういうこともあった。

◎さっき言ったように、ノリがよくなくちゃ駄目。

◎そうですね、それから、親子一緒に楽しむということも大切にしたい。金魚すくいなど縁日のイベントを開催して、親子で来て、「それではお願いします」と、子どもだけ置いて、お

母さんは用足しに行ってしまう。皆さん忙しいのはわかるが、それは非常に残念。

◎なかなか全員が参加するということはできないんだと思うが……。

◎せめて半分ぐらいの親御さんは残って一緒に体験してもらいたいと思う。

◎やってみないとわからないことはたくさんある。

5：未来に残していきたい大切なもの

◎テーマとして、ここにあるじゃないですか（当日の式次第のプリントを指して）。「大切に守る未来につなげていきたいもの」って。伝統文化的なものはみんな途切れてしまっている。もったいないというのがいっぱいある。お祭りもそうだし。ただ、先ほどから話が出ている新しい縁日のようなイベントもやってみたら多くの人が集まる。私も担当してやっている生き物調査も、最近は、若い親御さんたちも参加してくれるようになった。続けていけば新しい人も巻き込めるし、一回途絶えたとしても、先ほど話が出たように、小さい子供の頃に体験した人が大人になってまた復活させてくれるのではないかなという期待もある。やはり、まずやってみる。隗より始めよの精神で、まずやってみる。それが、これから将来に向けて、なんらかの形で大切なことを繋いでいくために必要だと感じる。つないでいく一つなのかなと感じます。

◎コミュニティは、若い人に引き継がれていくものだから、私たちよりも年齢が下の人に。だから、会話をしていくという、その土壌を桑地区は生かしていけばいいのではないかな。自己主張でもなんでもいいから、やはり受け入れて、そこで議論をして決めていけばいいと思う。それが基本で、どの地域でも同じこと。それができるかできないか。徹底的にケンカする

わけではない。ちゃんと話し合いをして、これはどうしようとか、こっちのほうがいいんじゃないかとかというのを繰り返す。一切、話は聞かないというような態度では駄目。あ、それもいいねという考えでいかないと。

◎桑地区というのはどちらかという、ほかの地域から聞くと、進んでいるねと言われることがある。いいところ、悪いところを含めて、どのように引き継いでいくことを考えたときに、NPOでも大切にしているが、まずは、情報発信を続けていくこと。こんな考えでこんなことをしている、こんなところもいいところもありますよ、懸念していることもありますよ、というのも含めて、常に発信していくことが大切。

◎コミュニケーションも基本。自治会の会長も役職の人も、年がら年中コミュニケーション取って、たくさんの方で話し合えば、物事はある程度いい方向に進むと思う。

◎神社の祭りや幼稚園などを借りて地域で行事をするときに、他の自治会の子供は参加できないとか、そんな小さいことを言っているようでは駄目だ。子どもたちに良い未来を残していこうとしたときに、そんなことを言うのは大人ではないと思う。

◎それから、農村地帯の将来を考えると、国があてにならないのだったら、逆に市から声を挙げて県へ上げて、栃木県から発信したらどうですかと言うことも市には提案したこともある。

◎受け身でいたら、守れるものも守れなくなってしまう。

◎だからその先駆者になって小山市で提案、発信したらどうなのかなと。

◎農振地域、市街化調整区域の線引きもずっと変わらない。

◎桑地区以外でも、もともと農村だったところに、虫食いの住宅が作られちゃうと、農家も昔みたいに思うように農作業ができないと言っ

ている。

◎左右に民家があるから。

◎総合的に計画をしてきていないから。田んぼがあって、住宅団地があって、田んぼがあって、住宅。そんな開発だから。勝手気ままに民間に任せっぱなしだからそういうふうになってしまっている。

◎92歳になる大先輩、大きく農家をやっている桑地区の農家のリーダーだが、この前、こんな相談を受けた。「夫婦で90代だからさ、運転免許証を返さなくてはならない。そしたらもう生活ができない」と嘆いている。そういう状況が、あちらこちらで起きている。

◎困っている人が声を上げることが第一で、それに気づいてもらわなくてはしようがないわけだから、でっかい声を出していかなくてはならないし、声を出せない人もいるから、地域も議員も、小山市も、悠長なことを言っている状況では無くなっている。

2 | 子育て世代の方々

参加者：7名（男性1名、女性6名）

女性7名、男性1名（子育てOB）。女性のうち桑地区出身は1名。他は市外の出身で桑地区出身と方との結婚を機に実家での同居や実家の近くに住み始めた方が多く、桑地区に縁はないが良い土地が買えたから家を建てたという方1名。

実施：2023年9月13日 18時30分～20時

場所：桑市民交流センター（マルベリー館）

1：子どもが通う小学校の規模

羽川小学校（2名が参加）

◎1学年4クラスで、100人を超えている。全体で630くらい。

◎宅地造成が進んでいるので他地区からの移住者、転入者が多い。

萱橋小（3名が参加）

◎うちは全校生徒で100名を切った。

◎今年の校長先生からのお手紙で、とうとう全校生徒数を100を切りましたと書かれていた。

◎1年生は今15人くらい。

羽川西小学校

◎全体で150人くらい、

◎西小も1年生は少ない。やはりそのくらい。6年生が18人。学年によって人数も男女差もすぐく差がある。

◎6年生は18人中5人が女子で、あとは男子。

2：育成会やPTAの活動

規模や人数の差による運営上の問題

◎同じ学区内でも地区によって子どもの人数の差が大きい。羽川西でも育成会単位で、ある地区は多いけど、ある地区は少ないから・・・という状況が常にある。だから、いろいろな組織

運営にも影響が出始めている。

◎だから人数が極端に少ない育成会の人で、ずっと何年も役員をやらざる得ない人も出ている。

◎結婚してから桑地区に来て夫の親の持ち家に住んでいるので、長年の変化や詳しいことはわからないが、人口が増え続けているところ、増えないで減っているところは、固定化してきているように思う。

◎少ない地区に住んでいるので育成会も入るときに先輩の方から「覚悟して」と言われた。

◎学校のPTA役員とかぶらないようにできればいいけど「そのうちできなくなるよ」と言われて、同じ年に掛け持ちでやっている人もいる。

◎育成会は、子供が1年生の時は下積みみたいな感じで「ここをやって」と決まっていることも多い。6年までの役を決める。空いているところでPTAのクラス役員をやるようにしたいが、そこもPTAで、じゃんけんで負けたらかぶってくる。よね。

◎萱橋小では、人がいなさすぎて、かぶらないようにするには、6年間の学年理事を決めておかないと、育成会の方が決められない。

◎萱橋小は、2年生のときに、卒業までの役員を決める。それが通例になっている。

◎途中で転出する人が出てくる場合もある。そうすると代わりの人いないので、その地区の会長さんの負担が増えることが多い。

◎そういう状況をみんな分かっているから優しいし、助け合う。

◎だからどうにかやって行けている側面もある。

◎人が少ない苦労はあるが、他の規模が大きい大谷地区や間々田地区に比べても、桑は、イベントは活発にやっている。そこは誇っていいと思う。小山市全域の育成会連合会のつながりで他の地域にもいくことがあるが、鼯目かもし

れないが地元が一番よくやっていると感じてしまう。

◎よその地区を知らないの、比べたことがないからよくわからないが。

◎桑地区でやっている育成会のイベントは、桑子連という組織の中では、かるた大会だったり、夏祭りのイベントだったり。去年はザリガニとかカブトムシを捕まえようみたいなイベント。ザリガニは駄目になってしまったので、それをやめて夏祭りイベントを企画したり。

◎夏祭りは、初めて来て楽しかったと言う子も少なくはなかった。

◎ワークショップで風鈴を作ったり、最後にビンゴゲームやったり。本当に子ども中心でできるような企画をやった。これから秋冬にかけて、かるた大会の企画しているところ。

◎3つの小学校のどこの子どもでも参加できるイベント。ただ、運営側が組織的に小さいので参加者の人数制限をかけざるを得ないところがあって、そこは課題だとみんな考えているところ。

◎運営側は、各地区の会長さんたちがお手伝いをお願いして回ってやってもらえているので、どうにか回っているかなという感じ。

◎コロナの規制の時期が過ぎて、地区ごとのお祭りや学区ごとの行事とかも動き出しているので、被ったりすると大変。

◎コロナでいったん途切れたものは、引き継ぎが大変。

◎書面だけで引き継がれても、よくわからないことが多い。前の年の例がないと。

◎どこからどう動くのか、どういう段取りでイベントを興していけばいいのか、誰に協力を仰いでいいのかもわからない。詳しそうな人に聞いても「うーん」と渋い顔をされると、やると決めたことに自信がなくなってきたりする。

◎やはり地区でやったほうがいいねと言う人と、もう（やらなくても）いいんじゃないのと

いう人もいて、その温度差がすごく出る。

◎ある人には悪いことを勧めたような反応をされたり、じゃあせっかくだからやろうかと言ってくれる人もいたり。土日も働いているお母さんもいるし、難しさも感じる。でも、いざやるとなったら、やはり少人数の小学校はみんな協力的で、団結力のようなものはあると感じている。

◎やっちゃえば楽しい。そこは分かり合える。

◎長年見ているが、桑地区はやはりいい人が多いと思う。協力的で。

◎萱橋小は先輩方が優しくかった。優しく教えてもらえた経験があるから。

◎羽川西も、上の世代の方たちがすごく面倒を見てくれる。萱橋と同じように、入学して間もない1年生の時に役員さんを免除してくれる。人数が少なかったら、1年生入学したら「はい、やって」みたいになっても当然なところを、1年のときは先輩たちの活動を見ていいから、と。それで慣れたころからだんだん組織図のようなものを教えてもらって、こういう段取りでやったほうがいいよというアドバイスをくれる。先輩方がすごく丁寧に教えてくれた。

◎幼稚園の頃から上の学年の人たちがいろいろな情報をくれていたのも助かった。

◎羽川小は、保護者の方の負担を減らすためにPTAの役員をなくしてボランティア制になっている。育成会についても同様で、喜沢は残っている。小学校のPTAに合わせて育成会活動もいったん停止しようとなったが、自治会長と話し合い、続けたほうが良いのではないかとこのことで続いている。規模が大きいといろいろと考えが違ふところも出てきているので。みんなできようというのは多分これからも難しいと思う。

◎PTAの役員を無くしたと言っても本部はあり、委員会をボランティア制にして、本部と一

緒に、牛乳パックの資源ごみの回収や給食の白衣の修繕などを行っている。

◎多いところも大変、少ないところも大変。萱橋校区で言うと、一番小さい自治会で5世帯。学校や育成会関係の役員をやる世帯は来年はそれが3になって2になって、我が家だけになっていく。

◎2世帯で役員を回している。

◎毎年役員みたいな状況になってくる。だから、今年は例年の活動に縛られず、ただ単純にみんなで魚釣りに行った。友達同士でLINEで連絡を取り合って日程も決めて。その程度しかもうできないし、それも今年で最後かなと思っている。

薄れていくコミュニケーション

◎地区によっては、育成会も成立しないくらいに子供が減っているということに加えて、コロナの期間が長かったから学校行事も減ったし、桑地区全体の育成会で夏祭りやっても関心がない人も多いし・・・。

◎イベントも自分たちの企画や運営で、多分やらないのが普通のお母さんたち。6年の子供がいるが、その年代でイベントをやっていたのは実質2年生くらいまで。そう考えるとイベントとか大々的に動いたことがあるお母さんたちってすごく少ない。低学年の時は、知らないことの方が多から、新しいことをやるのに難色を示す人も多いし。

◎先生とのコミュニケーションも薄れている。家庭訪問も1年、2年ぐらいの時しか先生は来なかった。

◎学校の行事もほぼなくなったし、授業参観もしばらくなかったし。

◎学校のイベントも地域のイベントもないので、誰が誰のお母さんだということが、わからなくなった。子どもの友達の顔と名前も一致しなくなったし。子どもから名前は聞いていても

顔が出てこないから全然覚えられない。「何君だっけ？」となる。記憶の中で紐付けていけないので、人付き合い、人の繋がりが浅くなってしまった。

◎育成会に加入していない世帯の子どもや、育成会がなくなってしまったところの子どもが、育成会の行事に参加することもあり、そのことに対して、いろんな考えがあり、難しいところだ。

◎役員は全員やらなければいけないという前提で、皆さん役員を引き受けているし、子どものためと思って引き受けている家庭もあるが、実際のところでは、育成会にせず、役員の仕事をしていない世帯の子どもも参加できるとなったら「では、なぜ私がやるの？」という疑問につながり、そういう意見や相談を受けることもある。「そうだね」としか言えず、なかなか難しい。

◎自分自身は、その辺りの線引きは無いと思っていたが、「加入していない誰々さんの子どもが来ている」などと指摘する方もいる。いい面も悪い面も不満も、必ず両面がある。

◎悪い点だけ見てしまうと、そういう指摘になってしまうが、よくよくお母さんだけの活動を見たら学校のボランティアに積極的に参加していることがわかってくるなど、見方によって違う。悪いところにスポットを当ててしまうと、そういう一面しか見えないが、別の視点でも見に行けば良いと思う。

◎人数が少ない地区では、それがとても大切。

◎うちは近所に同級生がいないので、遊びに行くのも親が連れて行かなければいけない。たまたまそういう地域に住んだだけで、そういう環境になってしまった。だから、子どもは選べない環境で、子どもに負担をかけてしまうのは良くないと考えていて、なるべく子どものことは地域にも協力しようと思っている。

◎やはり同級生が周りにいっぱいいて「遊びに

行ってくるね」と、ぽんと出かけられる環境はすごく羨ましい

◎それが一番。

◎「自転車で走ってくるね」と言っても心配になる。どこに行くにも遠いから。

◎子どもだけで「行きます」はできない。

3：生活の利便性について

桑地区の地理的位置

◎久しぶりに小山市の中心地の方に行くと、驚くことがある。

◎新しい市役所ができていたり、市民病院のちょっと前に体育館ができていて。

◎すごい住宅がたくさん建っているところも。いい車が並んでいた。

◎もともと森だったところが開発されて随分変わっている。

◎生活圏はあっちでは無いから、滅多に行かない。

◎ああいう開発が進んでいる小山地区もいいのかなとは思いますが、自分たちが住んでいる桑は平地林も残っているし、人間以外の生き物にも会える。

◎桑地区は、JRの駅に行くにもどっちつかずで中途半端。位置的に良く無いと思う。

◎昔、大沼に駅を作ろうという話があったようだ。その後、大沼公園の前の通りが、鉄道の線路を越えるのにアンダーパスになった。混んでいる時も多いけど、あれで、東西の移動が便利になったと思う。

◎アンダーくぐれば都市部、中心部に行けるが、混んでいる時はできるだけ通りたく無いから、うちからはさっと移動できる下野市に行く。

◎うちは、結城市に行く。結城市に行く方が道路が空いていて交通渋滞がないから。

◎新4号とかで、移動も区切られている気がす

る。苦労して大きいものを越えないといけないみたいなイメージがある。

◎時間もかかる。

◎新4号と東北線・宇都宮線の間は栄えているイメージ。それで思川があって、そのすみっこに自宅がある。だからとても疎外感を感じたことがある。

◎線路とか新4号とか、大きな何かに遮られた地区のような気がしている。

日常生活での困りごと

◎桑は街灯も少ない。道が暗い。

◎通学路になっているところが特に暗い。

◎萱橋小は、通学路がとても長い。何も無いところを子どもたちはひたすら歩いている。夕方には暗くなってしまう。

◎他の地区ではスクールバスを走らせているところもあると聞く。

◎夏もとても悲惨。子どもたちは一番暑い時間に歩いて帰ってくる。

◎真夏の午後の2時半。木陰もない、日陰もない。死んじゃう。

◎民生委員さんとか歩いてくれているが、お年寄りなので熱中症などにならないか、そちらも心配。

◎大人が目があるのはありがたいが、子どもに何かあっても、お年寄りに何かあっても心配。暑さが尋常ではないから。

◎桑地区では小児科がないわけではないが予約が取れないので本当に困っている。

◎ネット予約になっていて、ログイン待ちして、朝の予約開始の時間になって3分で予約が埋まってしまう。

◎いつ行っても患者でいっぱい。電話も受けてもらえない。

◎コロナになってウェブ受付が主流になって、そうしたら予約が取れなくなった。

◎バスが少ないのも問題だと思う。

◎おーバスは以前フル路線を走っていたのが縮小になった。停留所の場所が良くないと思う。私の住んでいるところには細長い地域なのに停留所が1カ所しかない。そうすると、停留所まで1キロも何キロも歩かなければいけないので、誰も乗らない。であれば、停留所を増やすべきではと思うが、そのような意見は出ていなかったのか、市に届いていなかったのか。停留所が遠くて乗る人が減ると、利用が少ないからと廃止される。

◎おーバスの話が地域でなされていたときに、お年寄り「知らなかった」で終わってしまった人がたくさんいると聞いている。その年齢になっていないから話を聞かれなかったけど、5年、6年たったら、やはりあったほうがよかったという声が多い。

◎バスが1時間1本以下だと、市民病院に行っ
て帰ってくるのも丸一日の旅行みたいになってしまう。

◎デマンドバスのことも知らない高齢者が多い。

◎市の広報誌に情報は載っているはずだが、なかなか読まない。

◎自分たちも今は問題ないけど、免許を返納したら生活は無理。生活できない。

◎歩いていけるところにスーパーがない。

◎近くにパン屋さんが欲しいという声も周りに多い。

◎昔は駄菓子屋さんみたいな店もあったけど、今は・・・。

◎萱橋小の近くには駄菓子も置いているような商店があるにはある。

◎一応、子どもだけでは行ってはいけないというふうにはなっているが、何人かで集まるとしたら、そこで駄菓子買って小学校で遊ぶぐらいしか遊び方が無い。

治安について

◎治安が良いかどうかの線引きは、おそらく年代で違うと思う。私のように50代というのは玄関が開いていても平気で寝ていられた世代。今日参加の後輩の皆さんは、それなりに社会にもまれてきている世代なので、そんなことをしている人は誰もいないと思う。鍵、窓のロック。最低限度の自分のうちのことだけは自分で守ろうという、そういう意識ではないのかな。

◎鍵はかけますね。地域でも盗難注意などの回覧がよく回ってくる。

◎ぶっそうな話も聞こえてくる。

◎我が家も家の裏側に冬用タイヤを置いていたら、それを盗まれたことがある。以前はそういうことは全くなかったが。

◎もともとのどかだし、そういう防犯意識がない地域だから。

◎上の世代のおじいさんたちは、みんな地域の方たちと顔見知りの方が多いので、知らない人が歩いていると不審に思うようだ。こんな時間にこんなところを歩いているのは変だ、と。

◎犯罪とは関係ないとは思いますが外国の方も増えてきていて、言葉が通じれば大丈夫かもしれないが、なかなかコミュニケーションが取れないので不安な面もある。

◎空き家も増えているが、誰か住み始めたのか、人がいるのかいないのかわからないようなところもある。

4：未来に残していきたい大切なもの

◎例えば、今年コロナが明けて、初めてその地区にある神社の歴史を、ここで昔の人が開拓していたことなどの話を聞く機会ができたが、そういうことを知る機会や、生き物調査も復活させて大切にしていきたい。

◎養蚕の歴史も大切。廃れてきているのでなかなか知る機会がない。羽川小では養蚕体験学習

をやっている、お蚕さんは、土日は家で面倒をみる。

◎飯塚あたりには、昔はカンピョウ畑（ユウガオ）もたくさんあった。

◎NPOのげんきフォーラム桑では、今年からユウガオ栽培を始めてたくさん収穫できたようだ。

◎歴史的に見て大切なものも桑にはある。琵琶塚古墳、摩利支天古墳とか。

◎古墳は他にもあったような。

◎一里塚もあるはず。

◎ぼんやりと知っていても、桑地区なのか下野市なのかとか、はっきりわかっていないことも多くて。

◎そういう歴史あるものは残して行って、子どもたちに教えてあげたい。

◎あとは、桑地区は川が交わる場所でもある。姿川と思川が。そういう特性も大切。

◎それから、うちの子どもは、お神輿を担いだことがない。お囃子もなくなった。地域のお祭りがなくなってしまった。

◎祭りは地域でやるしかないという状況ができている。笛吹ける人がいない、後継者作れないという話が高齢者の方達から出てくるけど、だからといって何かできるかという、その先に話が進めなくて・・・どうなっちゃうのかなあと傍観になってしまう。

◎萱橋の日鷲神社は、小さい神社だが、7月末に輪っかを作ってくぐったり（茅の輪）とか昔ながらのことを大事にやってくれているところもあるが、続けていけるのかと本当に心配になる。

◎そうそう。この縄、誰が作ってるんだろう、これから続けられるのかと思ってしまう。

◎おじいちゃんたちがお囃子をやっていたり、とても素朴でいい祭事だが、続けていけるのかどうか・・・。

◎神社は結構あるけど、夏祭りがなくなったと

ころも。

◎向野本田の神社では、木でできたお神輿もあるが・・・。

◎お囃子は、70代くらいの人たちが頑張っているようで、それを引き継ぐ50代、60代の人たぶんいないのではないかと。

◎桑地区の外から来た立場としては、畑が身近にあって自分の家で野菜を作っている家が多いことが、とても魅力に感じた。桑生まれの人は当たり前過ぎて魅力を感じていないと思う

が・・・。西仁連川沿いでも、ウォーキングとかランニングをされている方が結構たくさんいて、その風景もいいし、田んぼの緑の時期は、とてもきれい。ぜひ残していきたい風景だ。

◎大沼もいい。桜の季節もきれいだし、カモやハクチョウとかも来るみたいで、子どもたちに残せたらいいと思う。

◎上の子が1年生のときに、家にいる祖母がいない時があり、学校から帰ってきて家に入らなかったことがあった。息子は、家の外で一人で待っているというのはなくて、自分で近所の仲のいいおばあちゃんの家に行って「うちのおばあちゃんがないから一緒にいてくれ」と言って、その近所のおばあちゃんの家で遊んでもらっていたことがあった。年配の人たちが、地域の子供達を良く気にかけて面倒を見てくれる、そういう地域性があると思うし、それも残していきたい。

◎子どもも人口も少ないからなのか、やはり桑の人は温かい。地域柄なのか、上下のつながりも横のつながりも密な方だと思う。そういう良さがなくなっていくのは寂しいと思う。

◎大変な面もありますけど、やはり助け合いがあって、見てもらっている、見守ってというのも、自分が住んでいる羽西地区もあると思う。人とのつながりの良さは、このまま残していきたい。

◎残せるもの、誇れるものとしては、やはり緑

が多いということなのかなと思う。それからよその地区から結婚を機に桑に来て、居心地が良いという人も多い。人間関係も確かに密なところもあるけど、次第に希薄にもなっている。もう少し地域のことや地域の人を知る術を、子どものうちから作ってあげたいと思う。

◎地域の関わり合いを作ってあげていく、というのは確かに大切。

◎私もここに来て、すぐに外で働き始めたし、地域のことも良くわからなかった。大変だけど、地域の清掃活動とか何か参加する機会と、その時に話す場が作ってあったら、大変だけどつきあいができるようになっていいと思う。

◎前にあった地区の運動会は、そういう機会として良かったと思う。

◎今は、ドッジボール大会とかが、運動会の代わりというか、そういう役割を果たしていたかもしれない。

◎子どもが中学校入学を控えているが、小規模小学校から行った場合、クラスの中にほとんど友達がいらない可能性もあり、いくら幼稚園が一緒だったという同級生がいたとしても馴染めるかどうか少し心配。

◎だから、桑地区全体でドッジボール大会をやって、他の小学校の子供と交わっておくのは、中学に入ったときに「あ、あいつ、みたことある、あったことある」となり、それは良かったと思う。

◎コロナ禍になって継続できなかったのが残念。

◎学校に入る前のオリエンテーションとか正式なものではなく、心のハードルを下げて、フランクに馴染んでおく機会を作ってあげられるといい。

◎各小学校から6年生だけでも5年生が入ってもいいし、チーム作って集まってもらって、親善試合をしても良いかもしれない。

3 | 農業従事者の方々

参加者：女性1名、男性4名。生まれも育ちも桑地区の方々。元農業委員の方や元栃木県農政部職員の方、法人化して農業経営をされている方、農業士の方など。兼業農家でやってきた方、土地利用型大規模生産者の方も。

実施：2023年9月26日 18時～19時30分

場所：桑市民交流センター（マルベリー館）

1：参加者の営農などの概況

◎元農業委員。農家としては専業でやっている。昔はトマトを中心に栽培していたが、燃料や電気代など色々と値上がりし、露地野菜も色々とつくり始めているが……。後継ぎはいそうでない。自分も含めて高齢の域に入ってきているので、今後のことを考えていかないといけない。

◎生まれも育ちも桑地区で、代々が農家。5年ほど前から法人化して株式会社としてやっている。主に施設栽培のトマトと水稲、今年からはニラなども栽培して、農協中心の出荷をしている。

◎生まれも育ちも桑地区。兼業農家で、元県庁職員（農業の技師として入庁）。今は、引き継いだ田んぼを守っているだけなので、農業者と名乗ることには抵抗もあるが……。

◎専業農家で牛を飼って和牛の肥育をして、米、麦、ソバ、ジャガイモ、ニンジンなどを家族経営で栽培している。牛は、経営が厳しいのであと数ヶ月で肥育を止める予定。30歳まではサラリーマンで県内の酪農家を回る仕事をしてきた。それをやめてアルバイトをしながら家の農業を継いで、そのまま任されてしまった感じで後を継いだ。

◎生まれたときからずっと桑地区で、今はブルーベリーを観光農園を主体にやっている。この

夏もとても暑くて、暑すぎて、観光農園だがお客さんが少ない。うちの集落は25軒ぐらいは田んぼを作っていたが、だんだんやめていって、人に貸している。去年から1軒だけ自分で作っているところがある。

2：桑地区ならではの農業や栽培作物の変遷

牛の肥育

◎うちは肉牛として肥育している。ピークは95頭いたが、今はもう4頭しかいない。10年前、特に5、6年前から儲からなくなって、その時点で一回、半分ぐらいに頭数減らした。そしてここにきて全く儲からない状況になっている。

◎その理由は、輸入の穀物の値段が上がって餌代が高くなったこと。安かったころの倍ぐらいの費用がかかるようになった。また、消費行動の問題もあって、今は牛肉がそんなに売れない。育てた牛はセリで買ってもらうが、セリ値が下がってしまっているから、子牛の値段とエサ代を足した値段で売れない。

◎うちで売っている牛は70万の牛。2年間、約600日で育てる。1トン8万円ぐらいのエサを、肥育の間に1頭で5トンぐらいは食べるから、餌代で40万。子牛を買った値段が70万として、110万以上で売らないと元が取れない。今では、セリでそこまでの値がつかないから、赤字を出し続けられないためには、もうやめるしかない。

山苗と養蚕

◎桑地区といえば、一時は養蚕、桑で有名だったが、その前に、カンピョウもやっていて、山苗の産地でもあった。

◎山苗ってスギとかヒノキの苗。山に植える。

◎養蚕が終わったぐらいに戦後、山苗を育てる家もかなりいた。特に東の方？

◎桑地区全体でやっていたと思う。

◎栃木県の北の方の杉は、ほとんど桑地区で育てた苗木のはず。

◎以前は60センチぐらいになった苗を3年育てて、根っこを菰で縛って、200本とか300本とか根っこを合わせて、丸めて出荷した。昔は、それを向こうの山の人は口を開けて山へ背負って登って植えた。林業も後継者は、一般の農家の10分の1だから昔みたいなやり方はできない。今はポットでスギとかヒノキを育てて、それを送る。それを国の補助金を入れてアルバイトを雇って、穴を掘ってポットで植えている。そうすると枯れないので。昔は山に植えるときに水も持って行って、苗を植えて枯らさないように植えるのは大変だったらしい。

◎ここは、そういった緑化木とか山林種苗に非常に土地が合っている。良い土の層が深いので根っこもよく張る。そういうのは向いているので個人で大きくやっている方もいる。

◎数は少ないが今も山苗をやっている人はいる。

◎花粉を出さない杉は需要があるが、材木にしたときにいい材木かどうかはまだわからないところもあるので大変だろう。

◎緑化材も、バブルの頃など一時期は非常によかったが。ゴルフ場の造成とかで木が売れた時代があった。今は需要が無い。

桑苗と養蚕

◎昔は日本全国の桑苗をここで作っていた。

◎桑苗を作っている人はもう一人もいない。去年か一昨年か、最後の人が辞めてしまったから。

◎蚕を飼っている人は、県全域で7、8人くらい？

◎飯田（北飯田）の（JAの）飼育所も今年で閉鎖になる。

◎飼育所では小さい蚕を育てて、2齢くらいまではそこで育てて、農家に配って桑を食べさせ

て大きくする。県内で4、5箇所あった。この地域には大きな飼育所が2つあって、最後の1つも閉鎖になる。

◎建物の老朽化が進んで修理しなくては駄目なのに、その予算がないということだ。

◎昭和のころには、ここの養蚕は天皇杯まで取った。全国でもトップクラスの養蚕の技術があった。

◎全盛期は、一人で3トン、4トン（の繭）を出す人もいた。

◎1回に150とか200ぐらい飼う。

◎3トン出すと、2000円でも600万なんです。それで、年間6回7回と回す。年間そのくらいの方はたくさんいた。

◎労働はキツかったけど、ここは裕福な地域だったと聞いている。

◎雨でも桑の葉を刈ってこなくてはいけない

◎寝ずに働いてる。相手は生きものだから。

養蚕が廃れた後の野菜栽培

◎養蚕は昭和の時代までは良かった。中学校のころだから50何年前に、聞いたことがある。4号線を通るバスがあって「この地帯は養蚕地帯で、非常に農家の人が裕福な地域です」とバスガイドさんが案内していると、そういう話を聞いたことがあった。安い絹製品が中国から入ってきたり化学繊維が増えてきて需要がなくなった。

◎昭和から平成が変わったころから養蚕をやめて、この黒ボク土で耕土が深いから、ゴボウ、ダイコン、ニンジンなどの根菜類に適して、作ればすぐ売れた。

◎どちらかというと重量作物。野菜でも重い作物を作っていた。葉物は作らなかった。あまり白菜だのレタスだのは見かけなかった。

◎葉物に比べて手っ取り早いというのものもあるし、耕土が深いから、それを利用できたこともある。

◎ダイコンが特に売れた時もあった。核家族化しているから大根も細いのが売れる。東京へ出荷するのに、相当出ているが、ここで作るとでっかい太い大根ができるので、そういうニーズがある京都へ出すようになった。京都は要するにカブと大根を漬物に使う。それで向こうからも期待された。次第にだんだん細くなってしまっていて売れなくなった。

◎やはりなんだかんだ言っても、相手に売れるもの、相手が欲しいもの、要するに市場とか、あるいはニーズ、そういうものをきちんと捉えて、相手の欲しいものを作らなくてはならない。それから適地適作で作ることも大切。低コストでいいものができるから。

◎養蚕の歴史があって農家には、ほとんどの家に蚕室（さんしつ）があるから、そこを利用して野菜の箱詰めとか作業ができた。

◎蚕室の中でダイコン洗ったりニンジン洗ったりできたから。

◎ダイコンはこの地区だけで日量 8000 ケースとかやっていた。

◎大型で 10 台も 20 台ものトラックで京都まで運んだ。

◎トラック 1 台で運んで行った分の売り上げで、帰りにトラックが 1 台買えるくらい。

◎もう一つが企業の契約栽培のトマト。産地としてやっていたが、でもやはり契約栽培は難しく、まさに需要と供給で、相手様が欲しいものを出していかないといけない。企業もそのころから海外進出が多くなってしまったので原材料を海外から安く仕入れることができるようになり、3 年もたったらこんなに安くされるのか。契約数を減らしてしまうのか、ということになって、結果的にダメになった。

◎それからナス科の作物にも土地が合っていた。ナスは根っこがずっと下によく張る。干ばつになっても深いところで水分を吸うことができる。今もナスなどは依然として結構強く残っ

ている。

◎ナス栽培も始まった時は値段が良かったが。

3：桑地区での課題

世代的な差異

◎桑地区というのは、歴史もあるし、団塊の世代の先輩たちが非常に元気でパワフルで活動的なので、その下の我々の世代も負けずに頑張ろうかと思っている。

◎まもなく 60 歳になるが、学校とかが終わるのがバブルの少し前ぐらいで、ちょっと景気がよくなっていてころなのでまわりの同級生は見事なほど会社勤めになってしまって、農家や自営業などは見事に少ない年代だと思う。70 代ぐらいの世代がすごくボリュームゾーンなので、余計入りにくかったというのもあるのかもしれないけれど。自分のように U ターンして農業を継いだというケースはあまりないと思う。

◎73 歳でも農業者を並べると若いほう。

◎農業者の集まりに行くと、いつまでいっても若いって、60 になるのに若いと言われる。

◎現時点で 60 は若い。平均年齢が 65 を超えているから。

新しい住宅に住む方からの苦情

◎思川の西側の田んぼ地帯は、一面田んぼ。こっちの田んぼは用水路の周りに 1 列に並んでいる、少し広いところもあるが。それ以外はみんな畑。畑は、一面の田んぼより、家が建ちやすい。今の法律でいくと、本来は市街化調整区域だから、住居は建たないわけだが。

◎農地法の抜け道から家が建ってしまう場合もあり、周りで農業をやっている人は、そこに家が建つと当然、気を使うことになる。民家ができると、ホコリや農業機械の騒音など、苦情を言われる。昔、20 年ぐらい前なら日曜の朝は、周りで草刈りのエンジン音が必ず鳴ってい

た。兼業農家でもみんな、草刈りを日曜日にやっていて、日曜の朝、夏場だったら5時ごろからエンジン音が聞こえていて、それが当たり前の風景だった。しかし今、日曜日の朝にそんなことをやっていたら、うるさいと言って苦情が出てくる。

◎コンバインで稲刈りをやっている「うるさい。子どもを寝かしているのに起きちゃう」という苦情が市役所などに入ってくる。

◎住宅団地周辺の畑などというのは、肥料をやると、洗濯物に肥料がかかったとか、車が白くなったとかというクレームが出るそうで、肥料を撒くのも気を使うという話も聞いている。野辺焼きの灰が飛んでも苦情になる。

◎昔からいる農家の方が気を使わないといけな

遊休農地の問題

◎田んぼ仕事ができなくなってからは、耕作できる人に田んぼを貸して、ついでと言ってはなんだが、畑も無料で使ってもらっている。周囲は、その人を頼って、多くの人が耕作してもらっている。作業の手間などの理由もあって麦をつくることになると、麦は一作で、麦があるうちは青々と綺麗だが、収穫してしまうと、その後の手入れは、貸している人も、あちらこちら忙しく、まめに作業できないので、雑草の大草原になったり荒れたりする。

◎うちも借りていた時期があるが、住宅団地の近くだったこともあり、ちょっと草が伸びているとそこの住民の方から苦情がきたので返してしまった。新たに耕作してくれている人も、他にもあり、総面積が広いので、作業が間に合わない。

◎蕎麦を作っている方は一年に二作つくるから、耕すのはまめで作物を作っているところはきれいに保たれているが、畑があるとしたら、畑の周りは額縁みたいな感じで草が伸びてい

く。

◎畑の中で四隅や周縁は、耕作機もあまり自由に動けないから。

◎種まきも他の作業も機械でやるから端までできないので、端を空けてしまうことになる。

◎北飯田では、そんな状況が目立ってきている。

◎一人で多くを引き受けると、細かい管理はできなくなってしまう。

◎他のところも同じ状況。高齢化して耕作できなくなって、まだ動ける人に貸していた田畑が、借りていた人も、いろんな事情で厳しくなって返されて、困っている。その田畑をどうするか。受皿を大至急作らなくてはいけない段階にきている。

◎牛の放牧なんてできないだろうか。まわりを電柵にして。

◎牛は電柵に鈍感だから難しいかも。

◎そうか。牛の放牧でもできれば、子どもらが来て絵描きでもさせて・・・ということも考えられるが。

◎桑地区全体の話として大切な問題。

◎担い手が少なくなってくると、動ける少数の人に集中していく。そうして、その人が厳しくなると、もうどうしようもない。

◎いよいよどうしようもないとき、さっき言ったように電柵が一番簡単でお金もかからないから、遊休農地で牛だとかヤギだとか飼うというのも悪くないなと思っていた。

◎ヤギは草を退治するから悪くはない。

◎確かにそうだが、草が減るだけで金を生まないので持続しない。農業って金をどうにか稼げるから、こうやって専業の人も何人かやられているので、稼げなくなったら、生きがいでやっている年寄りの人は、まあそれはそれでいいけど、もう続かない。

◎環境のためとか、草がないほうがいいのか、それはもちろんいいことなのだが、今までみん

なが小さい規模ながらもやっていたのは、ある程度は稼げたから。自給自足で自分で食べるものを作っていたという時代はそれでよかったんだけど、今、農業を専業でやっているような人は、それで稼ぎを上げているので。もちろん周りに迷惑をかけないようにと多少は管理をしながら。

◎細かいところまで手が回らないのも現実だ。

◎草や環境保全がどうのこうのは、また別のアクセスだと思う。農業という立場からしたら稼げるのが前提。もしそこまで（環境云々）言われるとしたら農業も喜んでやっているわけではないところもある。

◎年寄りがいる家は（作物を）作らなくても、なんとか農地は維持している。その70代以上がリタイアしたり亡くなったりして子どもの代になると、農地を借りていたのであれば返すし、自分の農地であれば一切やらなくなる。そういうケースが多い。

◎作れる作物の違いにもよる。田んぼでは基本的には水稲、稲。米であれば最近、減反の制限とか多少あるにしても、もう機械化されて、儲かる儲からないは横に置いておいて、どうにか耕作はできる。畑で作るとなると、そういう機械化でできるものがあまりない。水稲はできないので、陸稲はやってやれないことはないが、今度は雑草の管理などが大変だし。金を稼ごうと思うと野菜を作ろうということになるが野菜は手作業がどうしても伴うので、簡単に大きな面積はやれないという話になる。だから畑は、根性決めてやっている人以外やらないし、続けない。

◎畑は区画が小さいところが多いから集約も難しく大型機械も入りにくい。

◎大掛かりな土地改良や基盤整備をやらないと。

◎うちの水田は、きちんと区画整理して整備されているが、それでも三角形や小さい水田など

がある。そういうところを今まで借りていた人が、とても面倒くさくて効率が悪いというので返し始まった。新たに誰も受ける人がいなくて、そういうところが遊休農地化している。

◎鉢形から向かいの萱橋あたりのそこそこ条件のいいところは、みんな茨城の野菜屋さんが借りてやっている。もう4、5軒入っていると思う。

◎国分寺のねぎ屋さんが借りているところもある。

◎野菜は連作を嫌うものがあるので、条件のいいところを何年か借りて、手を引いて。また次に違う畑を借りるとか。借りるほうは自由に縛りがないから。

◎一時期、ゴボウ屋さんでそういうところがあった。

◎ゴボウが一時ほど儲からなくなったから、その手のゴボウ屋さんはいなくなった。

◎畑は、やってくれないと言われても、5畝ではどうしようもない。

◎畑は、集約が難しいのが課題。

◎なんとかしなくちゃならないのは事実。

◎田んぼを借りる借りないの問題も、いろいろある。例えば水が同じ水量でも、同じお金かけても、常によく入るところと、下のほうは入らないところがある。下の、水が入らないところなどは誰も借りたくない。

◎電気ポンプで水を引くと、電気代も馬鹿にならない。

◎うちのほうは機械で水をあげるのと川をせき止めてやるのと両方やっているが、堰だって作るのに5億円もかかる。堰の問題もあって、上で水が足りないとき止められちゃうと、下に流れてこなくなる。そういう時の調整をどうするかなど、大きな課題はいっぱいある。

◎でかい声じゃ言えないけど、うちのほうはもうそんなに耕作者はいっぱいいるわけじゃないから、年寄り数人と耕作やめたらポンプ止めち

やえばいいんだけどという話も出ている。もう米を作るのをみんなで一齐にやめよう、と。ちょっと規模を大きくやっている人は別に米だけじゃなく他のものも作っているから。井戸のポンプを二つ止めれば、それだけで500万ぐらい電気代が浮く。

◎本当に、経費が嵩んで厳しい状況。

経営上の課題

◎桑地区は養蚕がずっと戦後盛んで、養蚕で食ってきたのが、昭和の終わりとともに養蚕が駄目になって、桑畑が要らなくなっちゃった。それで結局、空いた畑に何を作ろうかということで、みんな一齐に野菜を作り始めた。ちょうど国の補助金などもあったので、みんなして、先ほど言ったように作物を作っていた。だが現状は高齢化とともにだんだんそういう手間を食う野菜は厳しくなっていて、今は畑が空き始めてしまったという実情。

◎本当は市の行政とか、大きな法人でもできて、そういう人たちが教育しながら、常に動向、ニーズを把握しながら、相手の欲しがるものを的確に供給できるようなシステムを作れば、これは東京にも近いうまくいくと思うが。

◎やり始める時は良いが、3年たつと他の産地もいろいろやってくると、さらに洗練されたものが欲しくなる。それに対応できるような農業者が、これからは必要。それをやっていかないといけない。

◎桑地区はずっと養蚕組合とか農協とか組織でやってきた、零細経営では合ったが、組織に守られて食わせていただいていたという歴史があるから、個人個人の確立された経営は、どんなに強くないのではないか。みんな自己完結になってしまっていて、そういうことが災いしてしまって、先に進むのがちょっと、茨城などに比べると出遅れた感じもある。

◎茨城はハシッコかった？

◎淘汰が早かったという面もあるのでは。

◎やめる人がどんどん早く決断した。やったられないと小さい経営の人は辞めてしまって、茨城の大きな人ばかりが淘汰されて残った。

◎例えば、白菜。国の価格補填制度で、これ以下に育った場合は、自分たちもお金を積んでおくが、国のほうからも助成があって、いくらまで価格が下がった場合はいくらまで補填しますという制度がある。こちらは組織を通してJAとかそういうところでやっていたが、茨城は大きな面積で栽培している個人でそれをやっていた。今言った淘汰されて残った人がそういう制度まで利用している。そういう農家はやはり強い。

◎ダイコンや何やで景気が良かった時代の後、その後の切り替わりがうまくできていないのが、桑地区の課題だと思う。

◎後継者がいなかったことも大きいのか。

◎後継者がいなかったというのは儲かる経営をしてなかったということではないか。その裏返しだと思う。ほかに稼ぎ場所があったというのものもあるのと、人間の寿命も延びていて、昔だったら55ぐらいになったら引退していたと思うが、今は80になっても頑張っている人がいるので次の代に譲れない。

◎次の代がないから高齢者が頑張っていると思う。

◎ただ、桑地区は、いろんな栽培の変遷があるが、個人個人が結構頑張って、個人個人がすごく経営がよかった。だから、勝ち組負け組ではなくて、みんなけっこう平等にいった。その名残もあるのかもしれないが、いまいち時代の変化にはついていけなくて。

◎そういう意味では、小山全体の課題かもしれない。田んぼにしても、間中とか穂積あたりの稲作地帯でも、3町歩から4町歩ぐらいの人が平均的。今はなかなかそれでは経営上駄目なん

だけど。

◎昔はそれで十分だった。ちょっと前までは十分それで食べていけたので、その面積の人がいっぱい残っちゃったという側面がある。

◎鉢形から絹にかけても100町歩規模で米麦やってる人もいる。そういう大規模農家って思川の西側にはあまりいない？

◎兼業で2町、3町って頑張っている人が多いかな。

◎あちはだから、同じ規模どうして集落営農、共同の農作業をやるような組合が成立してる。

◎補助金があっても経営は大変だと思うが。

◎桑は飯塚にあったが、自分でやれる人は抜けていってしまったようだ。

◎米で食っていけなくなっているの、メインはトマトとかネギをやっている人になる。

◎しかし、機械は高いし、古くなってくるし、あんまり若い人が育ってないという問題もあるし。

◎米で食っていけないのは深刻だ。昭和のころは米価1万8000円。それが今、いいところ1万2000円ぐらい。この2年で農薬、除草剤、肥料、こういうのがみんな倍になった。

後継者問題

◎うちは、息子が後を継ぐと言って、一緒に仕事をしている。特に後を継ぐように説得したわけではなく、単に、経営の数字を見せてきた。自分もサラリーマン辞めて農業やる時、当時、和牛の売り上げが好調だったから、それで決めた。年収300万ぐらいでサラリーマンをやっている、農家で年間何千万という金が動いているのを見ていると農家に可能性を感じるはず。

◎昔は農家の長男は継ぐもんだとという考えだったが今はそうじゃないから。

◎よほど本人が自分の意思をはっきり持っている

ないと。

◎この前、県内全域の20代が40人ぐらい集まるから話を1時間ぐらいしてくれと頼まれて話をした。質問も熱心だしみんな熱かった。農業をやると決めて挫折せずに残っている若い世代はみんな熱心。大規模化して法人化して・・・と抱負もある。

◎うちにも先週金曜日に30代前半の若い人が訪ねてきて、いろいろ話をした。野木の人で米麦をやっている、これからバリバリ広げていきたいという希望を持っている。

◎地域の中でそういう人が育ってくることを期待する。

◎もう桑地区の話からは外れていくが、大規模な法人が県や市町村を超えてどんどん広がっていく時代になってしまっている。今、この辺で聞こえてくるのが、埼玉のある会社は、今300町ぐらいやっているらしいが、そこが佐野にも進出して、今度は野木に出てくる。

◎要するにベンチャーみたいの組織で、若いやる気のある人が結構うまくやっている。

◎それは基本的にはマーケティングが非常にできていて上手ということ。

◎情報管理も。

◎これからは、農業そのものも、ビジネスとして地域の中で育つし、育てる必要性もかなり出てくる。

担い手不足ではなく土地あまりの状態

◎「担い手不足」とよくいうが、担い手不足ではなく「土地余り」というだけの話。農業やって食っていけないので、土地が余る。農業で食っていけるのであれば、土地の取り合いになるはず。だけど土地が余っている。担い手が足りない、というのは、農産物が足りなくて、もっと必要だけど、それを作る担い手が足りない、ということのはず。実際には、米も野菜も値段が下がって、そして余っている。農産物が足り

ないのなら、値段は上がるはず。輸入されている農産物もあるが、それは値段のバランスからの話で、国内産は、余っている。だから担い手が足りないという捉え方は、おかしいのでは？

◎担い手不足だという発想なら、問題は絶対解決しない。

◎生業としての農業がうまくいけば最高で、農業で食っていければ土地は余らないはず。

集まって話す機会がない

◎地区の農業者で、いろんな情報を共有できたり、集まって話す機会が作れると良い。

◎農家同士で集まることって全く無い。

◎部会とかというのもあんまり無い。農協もだんだん支店がなくなって統廃合されたし。

◎要するに、今日いろいろ話しているような、こういう身近な話が意外とできてない。

◎前は集落座談会と言って集落ごとに集まっていたが、もう今はそれもできない。桑地区全体の座談会にしても、それでもこの間16人しか集まらなかった。

◎みんな問題は抱えているんだけど、そういう場所に行くというのが意外とできなかつたり。

◎でかい問題もあるし、個人で抱えている小さい問題もいろいろ出てくるから。

◎さっきも言ったように、昔は、団塊の世代の上の世代、今の80ぐらいの農家がたくさんいた。公民館に集まれば、農家だけでもワンヤワンヤして、そこで酒でも飲みながらお互いに情報交換が行われていた。それが年々農家が減って行って、座談会をやっても数人しか集まらなくなって。そうすると人のつながりも薄れるし、情報も伝わらなくなる。昔はそういう寄り合いで自然と情報共有ができていた。

4：農村部と都市部との繋がりについて

◎都市部の人たちが気楽に交流を深めたり、も

う少し水をきれいにするような取り組みをしたりとか、楽しみながら来られる場所になるといいなと思うが。果たしてどうしていけば良いかというのはわからない。

◎田園環境都市という考え方がどういうものかはわからないが、都市と農村の交流というのを主眼として置くのであれば、農業者としては、それは勝手にやってくれというのが本音。観光農園とかであれば、その考えも成立するかもしれないが、農村部の地元を発展させよう、いろいろ改善していこうというのに、それだけでは何の解決にもならない。特に稲作は一般の人が来て、田植え、稲刈りのイベントをやっても、それだけ。農家がいかに稼いでいけるかということには結びつかない。だからその発想が、一昔前ののどかな農村というようなイメージが前提なら、それはもう成立しない。

◎確かに慈善事業では農業はやっていけない。そこはしっかり踏まえながら、例えば都市部の人も農村地帯に来て、梨とかブドウとか野菜とか農家の庭先で比較的安く買えるいい場所だよというイメージでもできれば、なおいいのではないかと思う。都市部の人も楽しみながら農村部に来られるような、稼げる農業経営が、あちこちにできれば一番いいかもしれない。

◎先のことは誰も分からない。今は、農産物にしても諸外国からどんどん安いものが入ってしまっているが、この先、例えばそういうものも入ってこなくなることもあるかもしれない。そういう時に対応できるような体制とか人づくりができるといいと思う。

4 | 東山田上自治会

自治会長会議の後、会長と自治会の皆さん 10 名に地区内をご案内していただきながら聞き取りを行った。

実施：10月8日 現地調査と聞き取り

◎人口と世帯数

東山田は上と下の自治会に分かれ、令和4年(2022年)4月の合計人口は226人、82世帯。

平成25年(2013)から9年の間に、人口はマイナス50人、世帯はマイナス7世帯。

◎区域

上自治会は、市街化調整区域であり農業振興地域である。上下水道は概ね整備され、下水は合併処理浄化槽または農業集合排水。

◎弁天沼と西仁連川

西仁連川の最上流。4ha? 川が一級河川なので国が県に管理を委託しているエリア。

約50年ほど前。親の時代は水も豊かで美しく、泳いで遊んでいた。真ん中の小島に舟で行ったと聞いている。ホタルも飛び交い、サギソウも咲いていた。カラス貝もいた。

西仁連川は、かつては水害も起こし、低地にあった下自治会の集落は、高台(今の位置)に移ったと聞いている。

上流(下野市)に工業団地ができてから、地下で沼に注ぎ込んでいた地下水を組み上げているのか、水量がどんどん減り、弁天沼の水がなくなり、ホタルはいなくなり、湿地性の植物も姿を消した。大雨の後に、少し水が溜まるくらい。鬼怒川の川底をさらう工事があり、その影響でこちらの水位も下がったという人もいる。

川も普段は水量はほとんどなく、橋の上から覗くと、ヨシなどのしげる合間合間に、所々に水面が見える。カワセミが来ていて、地区の人がよく目撃している。

水が湧かなくなってから、沼にオオブタクサの繁

茂→月に1回の草刈りで除去を続けてきた。ようやくほとんどが無くなり、今は、ヨシとススキが増えた。

沼の西半分は、水が無くなり土地が草ぼうぼうになってから産業廃棄物などのゴミの不法投棄が増えていた。10年前に(?)、地元の議員さんを通して県に働きかけ、1300万か1500万の予算をかけて全て撤去。その後は、草刈りをまめにするようにして不法投棄もなくなっている。

今も、5月から10月の間は、月に1度、草刈りを続けている。他の自治会からは「上は集まりが多いね」と言われる。また、弁天沼周辺だけではなく、ゴミが少ない印象。地域の人が歩くときに、目に着いたら必ず拾っている。この日もゴミ袋持参で数名の方が拾っていた。

道路に歩道がなかった頃は、通行する車からタバコのポイ捨てがあり、草はらが火事になったこともある。今は、沼側に歩道ができて車道との距離が空いたため、その心配はなくなっている。

今でも、大雨が降ると、沼の北の方では、きれいな水が湧いている。最近の確認をして行けていないが、2、3年前の、水が湧いている様子を会長がスマホの動画に残している。

道路沿いから入れる弁財天の祠は、土を盛って造成して建てている。

当日も、多くのトンボが舞っていた。まだ幼虫が孵化できる環境はある。「トンボの里」が地区のまちづくりのコンセプト。

◎山田神社

大豆畑、蕎麦畑が広がる景色の中に林に守られて神社がある。須賀神社の系列。参道の両脇の林も下草がきれいに刈られ手入れされている。11月第2日曜が山田神社の秋祭り。

拝殿正面の上、木の彫り物(龍)は、そのほとんどが青や赤で塗られており(実施年は不明)、その色がさめてきている。地区の方達は、皆さん着色がない方が良いというお考えでした。

本堂の中の御神体は、四面に素晴らしい彫刻があり、地区では、左甚五郎作として伝わっていた。しかし、1面をのぞいて、3面の彫刻が施された胴板が盗難にあい、今は1面しかない。盗難にあったものの中には、鶏が籠の中に入っている絵もあり、それは小山市内では須賀神社と山田神社にしかなかったらしいとのこと。

境内には、小さな祠があり、昔、流行病の時に作られたもので、この祠（権現様）のおかげで、この地区だけ病から守られたという言い伝えがある。コロナ禍のピークの時など、御供物をしている人もいた。井戸もあるが、これは、近くでゲートボールが盛んに行われていたときに掘ったものとのこと。神社の南側には、縄文遺跡もある。

◎農地と風景の変化

水田と畑地が混在し、平地林も各所に残る。畑では、交互に作られるという麦と蕎麦、また大豆が栽培されている。退職後に、家に農地があるから作物を作ろうと始める人も少なくはないそうだ。地区の有志で無農薬で大豆を作り、それで共同で味噌づくりを行っている。条件の良いところに預かってもらって、秋に分ける。手間が大変なので、共同作業の味噌作りは今年までとして、来年からはやりたい人が・・・というやり方になる予定とのこと。

30年、40年前くらいまでは、桑畑も多く、養蚕を行っている家も多かった。他地区から嫁いできた方は、家がやっていなくても近所の家に手伝いに行ったこともあるとのこと。「ここ、昔は桑畑だったよね」というところが切り開かれて家になっていたりする。変化はあまり激しくはないが、風景は変わってきている。

当日、歩いた範囲では見られなかったが、少し離れたところではソーラーパネルも立っているという。

公民館の近くに、複数の新しい住宅が並ぶエリアがある。(地区の方は、東山田のビバリーヒルズ

と) 全て1つの平地林だったところが売却され宅地になったとのこと。

◎北桜高校

広い敷地と高校前の道路(車歩道分離と中央に植栽帯)が印象的。道路は高校所有地ではないかとのこと。以前は、地区住民との交流も盛んで、弁天沼一帯での生態系調査や文化祭に招待されたりしていたが、今は、交流が途絶えている。

◎山田沼

農業用ため池。地区としては、鉢形と東山田上にまたがる。

以前は、鯉の養殖が行われていたとのこと。また、真冬は凍結し、子供たちはここで滑って遊んでから学校へ行っていた。当日は、カモの群が泳いでいたが、川鵜が集まり、潜って魚をとっている風景を見ることもあるとのこと。カメもいる。

魚釣り禁止の立て札が各所にあるが、当日も、数名が釣り糸を垂らしていた。ネット検索をしてみると、ヘラブナ、ブラックバスを目当てに人がきているようだ。

山田沼の南側の道路から、筑波山の二つの峰がきれいに見える。元旦は、ここにきて、まちづくりの仲間、筑波山から昇る初日の出を拝んでいる。

◎空き家の問題

この数年で数がとても増えたということはないが、空き家の状況が年々ひどくなっている。庭木が伸びて道路に出てきて、敷地内の建物を隠して見えなくなる。伸びてきた枝から枯れ枝の落下や落ち葉が道路に降ってくるという問題もあるが、懸念しているのは、繁る庭木や草のために、中が見えにくくなり、犯罪が起りやすくなったり、ゴミ捨て場になりやすくなったりすること。家は朽ちていくが、庭木は自然に朽ちていかない。その管理が課題になっている。

◎ホタル

地区内に蛍の幼虫を育てている人がいる。公民館近くの平地林にパイプで骨格を組み、夏になるとそこに蚊帳をかけて、中に成虫になった蛍を放ち、子どもたちと観賞会をしている。弁天沼で自然の蛍が復活することも、まちづくりの1つの目標。

3-2 アンケート調査結果（概要と考察）

桑地区で実施したアンケートについて、ここでは、主要な設問の結果について概要と考察を掲載する。設問内容によっては、既に調査を終了した他地区の結果との比較も行う。

質問票と、単純集計・クロス集計の詳細、自由記述を書き出したデータは別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載する。

回答数/回答率について（再掲）

・回答数 724 件

内訳：無作為抽出 2500 世帯への

郵送による回答：630

インターネット回答：94

・郵送での回収率 25.3%

宛先不明での戻り 12 通を除外した 2488 を母数として算出

・集計有効数：706 件 締め切りを大幅に過ぎて届いた等の 18 件を除外して 706 件で集計

1：回答者の属性について

1-1 設問【1】の集計結果

-1 性別

男性 38% :270名	女性 55% : 389名
--------------	---------------

その他 1 名 無記入 46 名 無効 0

-2 年代

70 代以上	17%	122 名	39%
60 代	22%	155 名	
50 代	18%	128 名	36%
40 代	18%	125 名	
30 代	18%	124 名	24%
20 代以下	6%	43 名	

無記入 9 名 無効 0 名

-3 世帯人数（回答数が多い順）

2 人世帯	37%	261 名
4 人以上世帯	27%	192 名
3 人世帯	16%	115 名
本人 1 人世帯	16%	114 名

無記入 24 名 無効 0 名

-4 職業（回答数が多い順）

会社員	35%	249 名
無職	31%	220 名
パート/アルバイト	17%	118 名
自営業	5%	35 名
公務員	4%	29 名
自営業	3%	16 名
学生	1%	10 名
農業（専業）	1%	8 名
団体職員	1%	3 名
農業（兼業）	1%	3 名

その他 19 名、無記入 10 名 無効 4 名

調査票での「無職」の表記は、「無職（退職者・主婦・主夫等含む）」

-5 お住まいの大字

-6 地域活動の経験

>別添資料（アンケート集計結果報告書）に掲載

- 7 桑地区との関わり～回答が多い順（選択肢の文章は一部略）

1 栃木県外で生まれ育ち、桑地区に移り住んだ。	235名	(36%)
2 栃木県内の他の市町で生まれ育ち、桑地区に移り住んだ。	201名	(29%)
3 小山市の他の地区で生まれ育ち、桑地区に移り住んだ。	98名	(14%)
4 桑地区で生まれて、一度も地区外で住むことなく、今に至る。	72名	(10%)
5 桑地区で生まれて、就職のために地区外へ出て、戻った。	36名	(5%)
6 桑地区で生まれて、進学で地区外へ。のちに戻った。	16名	(2%)
7 桑地区で生まれて、進学、就職で地区外へ。のちに戻った。	10名	(2%)

●出身地別の内訳

集計結果を、生まれた県や市町でまとめ、その割合を見ると、このような内訳になる。

栃木県外で生まれた		36%	65%
栃木県内の他の市町で生まれた		29%	
小山市で 生まれた	他の地区	14%	33%
	桑地区	19%	

●コメント欄の記述

桑地区に他所から移り住んで来た人やUターンした人には、コメント欄にその理由を記入してもらった。（コメント回答 534 件）

主な理由を表に挙げ、コメント欄の記述から一部を紹介する。

コメント要旨	回答件数
①仕事や職場の関係で	167
②結婚に関する理由で	149
③実家や親との関係で	92
④土地や住宅が購入できて	72
⑤その他の回答は、複合的なコメント 「利便性の割りにのどかで自然がある」など	

●記入コメントより

①仕事や職場の関係で

◎埼玉県に生まれ会社の転勤で羽川に移り住んだ

②結婚に関する理由で

◎結婚を機に、パートナーの生まれ育った地域に暮らすことにした

③実家や親との関係で

◎親と同居するため ◎親が農家で作業を手伝うため 埼玉に住んでいましたが、家賃の関係で小山に来ました。実家も近いため

④土地や住宅が購入できて

◎住宅を探していた時販売されていたので ◎小山市内の桑地区に土地を所有(親が)していた為

⑤その他

◎利便性の良さを考えて移り住みました ◎職場と義実家の間だったため ◎都会ほどの騒々しさは無いが利便性が良かった為。小山市中心部と比べたら、比較的緑も多く、交通量もそんなにないから、この地区に移住しました。

1-2 集計結果より

●主たる回答者像について

以上の結果より、主たる回答者像として、例えば「桑地区で生まれた60代以上の男性」など「地域のシニア」という層が浮かびあがることはなく、各年代に万遍なく回答をいただけている。

これは、先に調査を終了した小山地区、大谷北部・中部地区と同様で、人口が多く、自治会回覧ではなく無作為抽出により郵送でアンケート調査を行うという手法の特性が反映された形となる。

先行調査地域を、A：田園地帯（自治会回覧を通してアンケート実施）、B：都市化が進行している地域（無作為抽出の郵送アンケート調査）に分けて、回答者の属性を比較すると、下の表の通り。

Aの地区では自治会からの回覧物は昼間に自宅にいることも多い60代以上の方が対応することが多くあり、回答者の年齢層の分布に反映されていると推察する。

Bの3地区では、回答者の属性がほぼ同じような傾向があるが、地区との関わりを見た場合、県外出身者の割合が、小山地区>大谷北中部>桑地区という順になり、小山地区と桑地区では20%の差異がある。桑地区は、市街化区域が一部にあり喜沢と羽川の住宅地もあるが、全体としては人の流入や動きがさほど多くない農村地帯の特質も併せ持つことの現れだと推察できる。

●地区との関わり～地区ごとの人口ビジョン検討

設問【1】の間(7)では、Uターンまたは、Iターンで移り住んだ人に対して、「その地区に戻ってきた/移り住んだ」理由について、自由記述で記入する欄を設けており、そこからは、前ページで書き出しているような、地区ごとの特性がある。

地区ごとの特性や、地区間での差異を整理していくことは、今後、地区ごとの未来ビジョンを策定していく際に、そのベースとなるはずの「地区ごとの人口ビジョン」検討の手がかりになると考える。

桑地区のように一部に市街化地域があり、住宅団地の開発が進み商業施設もあるエリアと、過疎化が進むエリアをあわせ持つ地区では、これから、住民の総意として、より一層の人口増加を望んでいく場合は、Iターンした人が回答した、その理由コメントに見られる、総じてまとめると「利便性が低くない割に、自然がありのどかな環境が気に入って」という声が具体的な施策の参考になると考える。それとも、現在以上の開発は望まず、人口増加政策は特に行わず、その分、少子高齢化社会に適応するような施策を充実させていく方向性を望むのか？ その場合も、アンケート【4】【5】【7】で寄せられている自由記述の声が手掛かりになっていくと考える。

南は大谷南部地区、北中は大谷北部・中部地区

	A：農村：自治会回覧			B：都市化進行：郵送		
	生井	豊田	南	小山	北中	桑
男性	65%	62%	66%	45%	46%	38%
女性	27%	33%	27%	52%	50%	55%
60代～	75%	68%	69%	46%	33%	39%
～30代	2%	5%	4%	18%	26%	24%
地区出身	66%	60%	62%	17%	14%	19%
県外出身	11%	10%	13%	58%	50%	36%

2：生活圏について

2-1 設問【2】の集計結果

選択肢から1つを選ぶ

- 1 仕事や学校へ通っている地域
- 2 日常的な買い物や用事で出かける地域

-1 仕事や学校へ		-2 日常的な買い物等	
行先	回答数	行先	回答数
桑地区	194	桑地区	349
県内の他の市町	134	小山地区（駅東）	99
小山地区（駅東）	55	小山地区（駅西）	98
小山地区（駅西）	46	県内の他の市町	54
宇都宮市	38	宇都宮市	27
茨城県	31	茨城県	25
東京都	21	大谷北中部地区	15
埼玉県	14	絹地区	5
大谷北中部地区	12	東京都	3
間々田地区	9	埼玉県	3
絹地区	8	間々田地区	2
大谷南部	6	大谷南部	1
群馬県・千葉県	3	穂積地区・中地区	1
豊田地区	2	豊田地区	1
穂積地区・中地区	1	群馬県・千葉県	1
寒川地区・生井地区	1	寒川地区・生井地区	0
その他	19	その他	4

-1 無記入 110 無効 2

-2 無記入 10 無効 8

選択肢から2つを選ぶ

- 3 休みの日に「特別な買い物」「会食」「イベント」等によく出かける地域
- 4 休みの日に「自然の中でリフレッシュ」「アウトドアスポーツ」等に出かける地域

-3 特別な買い物や会食等		-4 自然の中で・・・	
行先	回答数	行先	回答数
小山地区（駅東）	255	県内の他の市町	371
宇都宮市	249	桑地区	157
県内の他の市町	228	茨城県	148
小山地区（駅西）	198	宇都宮市	85
桑地区	106	小山地区（駅西）	58
東京都	98	群馬県・千葉県	53
茨城県	54	小山地区（駅東）	47
埼玉県	37	東京都	18
大谷北中部地区	16	絹地区	16
群馬県・千葉県	15	埼玉県	14
絹地区	12	間々田地区	8
間々田地区	6	大谷北中部地区	5
大谷南部	5	豊田地区	5
穂積地区・中地区	3	寒川地区・生井地区	5
寒川地区・生井地区	3	大谷南部	2
豊田地区	2	穂積地区・中地区	1
その他	33	その他	65

-3 無記入 17名 無効 3名

-4 無記入 93名 無効 1名

2-2 集計結果より

仕事で出かける普段の生活圏について、無記入と無効の回答を除く母数で見ると、回答者の32.7%が桑地区であると回答し、日常的な買い物や用事では、回答者の50.7%が桑地区を挙げている。日常的な生活範囲としては、2,3人にひとり、桑地区内でほぼ完結していることがうか

がえる。

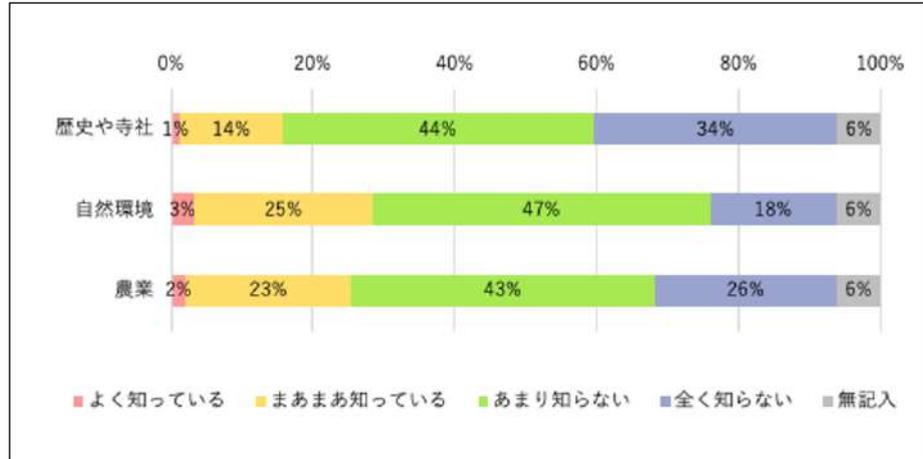
また休みの日などの外出（買い物や余暇活動）で訪れる「県外の市町」において、その内訳のコメントから（-3）上位は（下野市 52 / 栃木市 45 / 佐野市 29）、（-4）上位は（那須町 85 / 日光市 66 / 下野市 55）と、グループインタビューでも語られていたように下野市との繋がりが強い。

3：桑地区の地域資源への認知度・関心度

3-1 設問【3】の集計結果

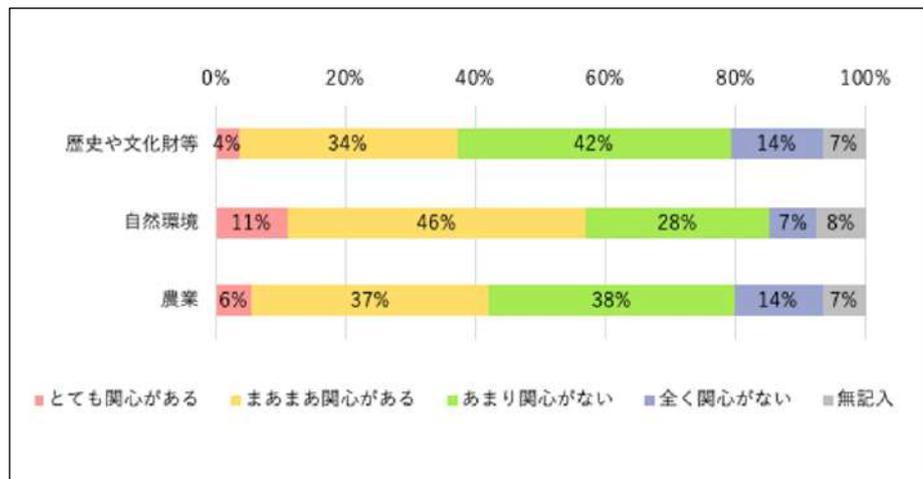
A 認知度を把握する

- (1)地区のなりたちの歴史や、
近隣に残る城跡や神社や
寺の歴史、由緒、祭り等を
知っていますか？
- (2)地区にある公園、街路樹、
平地林などについて
知っていますか？
- (3)地区内の農業について
どのような地域でどのよ
うな農業が行われている
か知っていますか？



B 関心度を把握する

- (1)地区のこのような歴史、
祭り、伝統芸能に
関心がありますか？
- (2)地区に残る自然環境に
関心がありますか？
- (3)地区の農業に
関心がありますか？



●年代別の集計結果

(1)桑地区の歴史や寺社、城跡、祭りについて 単位は% (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない			関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く		とても	まあ	あまり	全く
全世代	15		78			38		56	
	1	14	44	34	-	4	34	42	14
20代	0	2	35	65	-	2	37	35	26
30代	0	2	37	59	-	1	26	48	24
40代	1	10	42	42	-	4	40	36	15
50代	2	10	45	35	-	5	26	48	13
60代	1	25	50	18	-	3	29	46	7
70代~	2	27	47	12		6	38	39	4

(2)桑地区の公園、街路樹、平地林などについて 単位は% (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	28		65		57		35	
	3	25	47	18	11	46	28	7
20代	5	23	35	37	14	42	30	14
30代	0	17	49	32	4	44	36	13
40代	2	20	55	18	13	50	24	9
50代	4	23	48	18	13	41	33	6
60代	3	35	47	9	12	38	32	3
70代～	7	31	43	7	13	46	23	1

(3)桑地区の農業について 単位は% (無記入、無効の数値は表に含まない)

	知っている		知らない		関心がある		関心がない	
	よく	まあ	あまり	全く	とても	まあ	あまり	全く
全世代	25		69		43		52	
	2	23	43	26	6	37	38	14
20代	0	14	35	49	7	37	37	16
30代	0	13	42	44	3	35	36	23
40代	0	17	50	29	8	36	38	14
50代	4	26	39	23	5	34	41	13
60代	2	32	44	16	13	41	27	5
70代～	6	31	41	11	8	40	34	5

3-2 集計結果より

桑地区の地域資源3項目について、全世代の認知度については、他地区（右表）と比較して、歴史的資源への認知度が低いことが浮き彫りになる。

農業への認知度についても、豊田地区、大谷南部地区に比べて低く、関心度は若干上がるものの、豊田 57%>大谷南部 45%>43%という並びになる。他の地区でも同様の課題ではなるが、地区の農業に対して非農家の関心を高めていくことが、他の設問の結果やグループインタビューでもあらわになったさまざまな課題の解決に向けての鍵となるのではないかと考える。

●参考：4地区データ

認知度は「よく/まあまあ知っている」、関心度は「とても/まあまあ関心がある」の合計数の割合%を記載。小山地区(3)は、市域全体の農業について尋ねている。単位は%。北中・南は大谷地区。

		豊田	小山	北中	南
(1)歴史	認知度	52	27	11	29
	関心度	50	54	33	33
(2)自然	認知度	40	39	29	39
	関心度	45	65	48	48
(3)農業	認知度	37	25	18	49
	関心度	57	51	34	45

4：解消したい困りごと

4-1 設問【4】の集計結果

質問「あなたが「無くしたい」「解消したい」「解決したい」と考える桑地区の困りごとは、どんなことでしょうか？」—— グループインタビューでの成果をもとに設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答する設問とした。

●回答が多い順（数字は回答人数・無記入などは不記載）

- 1 公共交通の不便さ・・・204
- 2 子どもが外遊びできる場所の減少・・・167
- 3 道路（幅の狭さ・繋がり具合）状況の悪さ・・・145
- 4 買い物の不便さ・・・117
- 5 空き家・空き地の増加・・・111
- 6 地域活動の担い手、後継者不足・・・96
- 7 医療機関の不足・・・93
- 8 地域の集まりや寄り合い・・・91
- 9 昔からの風習・・・86
- 10 交通渋滞・・・85
- 11 路上などのゴミや小見出しマナーの悪さ・81
- 12 人口減少・・・65
- 13 選択肢が少ない教育環境・・・61
- 14 選択肢が少ない働く場所・・・58
- 15 地域でのコミュニケーションの不足・・・57

- 16 農業の担い手・後継者不足・・・56
- 17 治安の悪化・・・51
- 18 騒音などの住環境への影響・・・44
- 19 祭りや伝統芸能の担い手・後継者不足・・・36
- 20 台風や大雨による被害（道路の冠水など）・28

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、5つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

生活環境に関すること	28.7%
交通や移動に関すること	26.7%
地域コミュニティに関すること	17.2%
教育環境や就労に関すること	16.5%
人口減少担い手・後継者不足	10.9%

4-2 集計結果より

生活環境（利便性）、交通や移動に関する諸問題が切実な困りごととなっている。買い物については117名が不便とする一方で、次の設問では213名がその利便性を守りたいものとして挙げている。地区の中でも市街化区域で商業施設も多いエリアとそうでない所がある実情の反映と言える。年代別では40歳以下で「子どもの外遊び環境の減少」が最多または2番目であることに注目したい。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え。全年代で上位の項目、年代で差があるものを色文字にしている）

20代	43名	30代	124名	40代	125名	50代	128名	60代	155名	70代以上	122名
1 道路状況の悪さ		1 外遊び場の減少		1 外遊び場の減少		1 公共交通が不便		1 公共交通が不便		1 公共交通が不便	
2 外遊び場の減少		2 公共交通が不便		2 公共交通が不便		2 道路状況の悪さ		2 地域の担い手不足		2 空家・空地の増	
3 限られた働く場所		3 道路状況の悪さ		3 道路状況の悪さ		3 買い物の不便さ		3 空家・空地の増		3 買い物の不便さ	
3 交通渋滞		4 交通渋滞		4 昔からの風習		4 治安の悪化		4 道路状況の悪さ		4 医療機関の不足	
4 買い物の不便さ		5 地域の集まり		5 限られた教育環境		4 医療機関の不足		5 ゴミの問題		5 コミュニ・・・	
5 人口減少		6 買い物の不便さ		6 地域の集まり		5 地域担い手不足		6 外遊び場の減少		6 活動の担い不足	
5 公共交通が不便		7 限られた教育環境		7 空家・空地の増		5 地域の集まり		7 コミュニ・・・		7 道路状況の悪さ	
6 昔からの風習		8 昔からの風習		7 買い物の不便さ		6 空家・空地の増		8 地域の集まり		8 外遊び場の減少	
6 空家・空地の増		8 医療機関の不足		8 医療機関の不足		6 外遊び場の減少		9 買い物の不便さ		9 ゴミの問題	
7 ゴミの問題		9 ゴミの問題		9 交通渋滞		7 交通渋滞		10 昔からの風習		10 農業の後継者不足	

5：大切に守り継ぎたい地域の宝

5-1 設問【5】の集計結果

質問「あなたが「大切に守っていききたい」と考える桑地区の小さな自慢は何でしょう？」
グループインタビューの成果をもとに設定した選択肢を用意し、その中から3つ選んで回答。

●回答が多い順（数字は回答人数）

- 1 街路樹や公園、平地林などの自然・・・243
- 2 買い物の利便性・・・213
- 3 地域に残る歴史ある史跡、神社やお寺・・・199
- 4 まちなみや景観・・・137
- 5 交通の利便性・・・131
- 6 地域の農業・・・121
- 7 公民館で行われる祭りやイベント・・・93
- 8 消防団や自治会など地域の互助活動・・・87
- 9 各地域に残る歴史ある建物や古木・・・82
- 10 各地域に残る祭りや風習、伝統芸能・・・71
- 11 趣味やスポーツの地域のサークル・・・58
- 12 地域の商業・・・23
- 12 地域の工業・・・23

その他・無記入・無効は記載していない

●ジャンル別の割合

その他と無記入を除いた選択肢を、6つの領域に分けて全体に占める割合を示す。

歴史的な地域の資源	23.8%
利便性が良いこと	23.2%
地域に残る自然環境	16.4%
地域コミュニティの繋がり	16.1%
地域の産業	11.3%
地域の景観	9.2%

5-2 集計結果より

ジャンルに分けて割合を出すと上の表のような結果になるが、地域に残る自然環境については、「街路樹や公園、平地林の自然」の選択肢単体での数字で選択肢別では最多の支持となっており、関心度は非常に高いと言える。また、年齢別の集計で、年代によって大きな差が出たのは、消防団や自治会などの地域の互助活動についてである（下の表、赤字）。60代以上が、その大切さへの支持や理解度が高い。

●年代別の集計結果（選択肢の言葉は一部省略または言い換え、同数のものは同じ順位。色文字については全ページ同様）

20代 43名	30代 124名	40代 125名	50代 128名	60代 155名	70代以上 122名
1 残っている自然	1 買い物の利便性	1 残っている自然	1 残っている自然	1 歴史ある史跡等	1 歴史ある史跡等
2 買い物の利便性	2 残っている自然	2 買い物の利便性	2 歴史ある史跡等	2 残っている自然	1 残っている自然
3 歴史ある史跡等	3 まちなみや景観	3 まちなみや景観	3 買い物の利便性	3 買い物の利便性	2 買い物の利便性
4 交通の利便性	4 交通の利便性	4 歴史ある史跡等	4 まちなみや景観	4 交通の利便性	3 地域の互助活動
4 まちなみや景観	5 地域の農業	5 地域の農業	5 地域の農業	5 地域の互助活動	4 地域のサークル
5 地域の農業	6 歴史ある史跡等	6 交通の利便性	6 交通の利便性	5 地域の農業	4 交通の利便性
6 公民館イベント	7 公民館イベント	7 祭りや伝統芸能	7 古い建物や古木	6 公民館イベント	5 公民館イベント
7 祭りや伝統芸能	8 古い建物や古木	7 古い建物や古木	7 祭りや伝統芸能	7 まちなみや景観	6 古い建物や古木
7 古い建物や古木	8 地域の互助活動	8 公民館イベント	8 公民館イベント	8 祭りや伝統芸能	7 地域の農業
7 地域のサークル	8 祭りや伝統芸能	9 地域の互助活動	9 地域の互助活動	8 古い建物や古木	8 祭りや伝統芸能
		9 地域のサークル			

6：暮らしの価値観

大問【6】として、個人の暮らしの中での充足感や豊かさをどう考えているかを問う質問を設けた。これは、SDGsの推進や持続可能な地域社会運営の構築を考える際に、生活者の価値観とそれに基づく行動様式の考察も必要不可欠であるという見地からの対応となる。

(1)については、全国的な傾向と比較するために内閣府が実施している「国民生活に関する世論調査」(1現在の生活について(4)現在の生活の充足感)と選択肢を同じくしている。同調査では、この質問は、昭和49年(1974)から継続されているので、経年での国民意識の変容も確認することもできる。

(1)(2)については、田園部・都市部の調査結果が出揃ってからの比較検討のデータとするため、ここでは単純集計の結果の掲載にとどめる。

6-1 設問【6】の集計結果

(1)「日頃の暮らしの中で「充足感を感じる」のは、どんな時ですか?」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 ゆったりと休養している時・・・470
 - 2 家族だんらんの時・・・414
 - 3 趣味やスポーツに熱中している時・・・383
 - 4 友人や知人と会合、雑談している時・・・293
 - 5 仕事に打ち込んでいる時・・・191
 - 6 勉強や教養などに身を入れている時・・・87
 - 7 社会奉仕や社会活動をしている時・・・57
- その他24名、無記入21名

(2)「あなたにとって「豊かさを感じる幸福な暮らし」は、どのようなことでしょうか? 豊かさや幸福の実現に「最も大切だと思うもの」は?」*選択肢から3つ選んで回答

●回答者が多い順(数字は回答人数)

- 1 心も体も健康でいられること・・・465
 - 2 好きなことをする時間のゆとりがあること・・・324
 - 3 好きなことができるだけのお金や資産のゆとりがあること・・・314
 - 4 老後、災害、犯罪や戦争などの心配がなく、安心して安全に暮らせること・・・273
 - 5 自然に恵まれた環境の中で、またはその近くで暮らせること・・・138
 - 6 家族や親戚、友人や地域の人たちと助け合って生活すること・・・134
 - 7 モノはあまり所有せずに、できるだけシンプルに身軽に暮らせること・・・100
 - 8 家庭菜園や花づくりなど、土に触れる時間があること・・・79
 - 9 家電や車など物質的に満ち足りた環境で暮らせること・・・66
 - 10 困っている人の役に立てる活動や、地域、社会の役に立てること・・・39
 - 11 住んでいる地域でつくられている農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・37
 - 12 情報や商品が手に入りやすく文化芸術に触れる機会が多い都会で暮らせること・・・24
 - 13 日本各地、世界各国の農産物や商品が手に入る環境で暮らすこと・・・9
 - 14 地域の伝統や文化を絶やさず継承し、次の世代に引き渡す活動ができること・・・5
 - 15 社会的な地位を築き、名が知れた存在になること・・・1
- その他5名 無記入18名

7：望ましい小山市の都市環境のあり方

7-1 設問【7】の集計結果

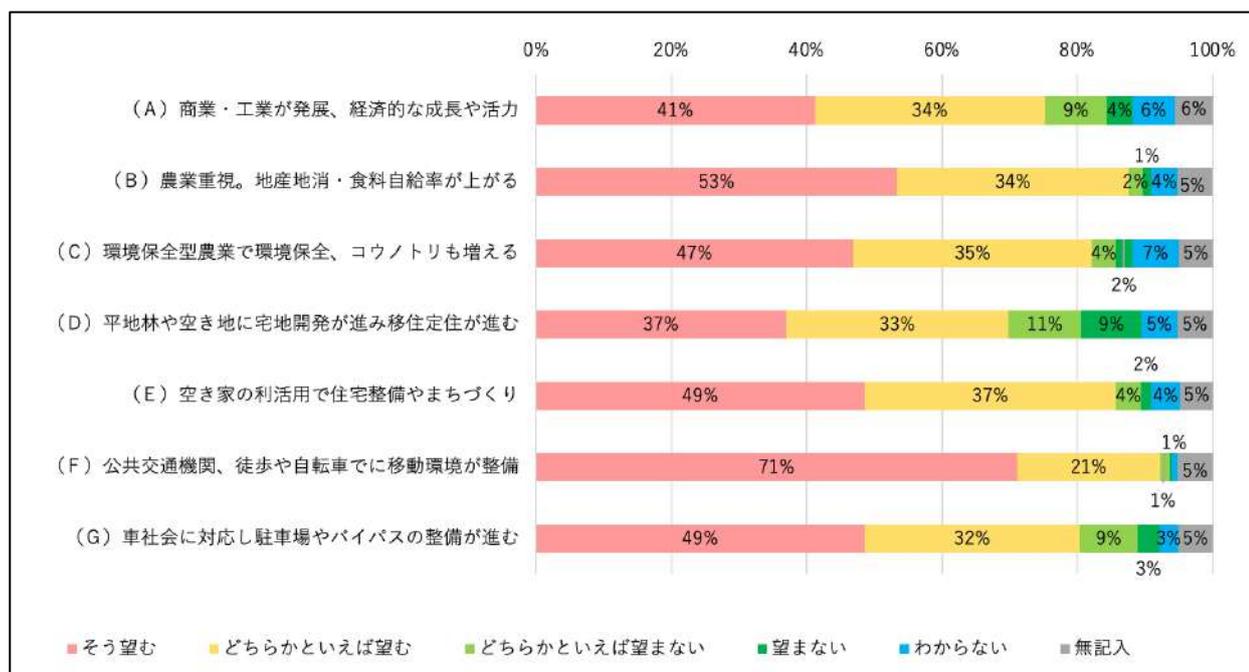
質問：「最後に、小山市のこれからのまちづくりについて、お考えやご意見をお聞かせください」

(1) 20年後、30年後の望ましい小山市の都市環

境のあり方について、ご意見をお尋ねします。

A から G それぞれについて、選択肢の中からお考えに合うものを選び、番号を [回答欄] にご記入ください。（後略）

選択肢①そう望む②どちらかといえば望む③どちらかといえば望まない④望まない⑤わからない



●支持・共感者が多い順（「そう望む」「どちらかといえば望む」の割合の合計が高い順。()内は「そう望む」割合）

* 選択肢の文末「・・・小山市」は省略

- 92% (71) (F)公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む
- 87% (53) (B)地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている
- 86% (49) (E)空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にされた住宅整備やまちづくりが進む
- 82% (47) (C)環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている
- 81% (49) (G)車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる
- 75% (41) (A)商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている
- 70% (37) (D)空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み、定住する若い世代や移住者が増える

●「そう望む」の割合が高い項目

- 71% (F)公共交通機関の整備や・・・
- 53% (B)地域の農業が大切にされ・・・
- 49% (E)空き家の・・・/(G)車社会に・・・
- 47% (C)環境保全型・・・

●「望まない」の割合が高い項目

- 9% (D)空き地や平地林などに新しい宅地・・・
- 4% (A)商業・工業が発展し、工業団地も・・・
- 3% (G)車社会に対応して・・・
- 2% (C)環境保全・・・/(E)空き家の利活用・・・

Ⅲ 簡易社会調査による報告

●年代別の回答結果

		20代	30代	40代	50代	60代	70～	全体	
A 商業・工業が発展し、工業団地も増え経済的な成長や活力が重んじられている	そう望む	47	32	34	46	46	47	41	75
	どちらかと言えば望む	30	39	33	33	39	28	34	
	どちらかと言えば望まない	9	15	15	8	6	3	9	13
	望まない	7	7	5	2	3	1	4	
B 地域の農業が大切にされ、地産地消が進み、市域内の食料自給率が上がっている	そう望む	65	51	47	58	60	48	53	87
	どちらかと言えば望む	28	37	39	32	33	33	34	
	どちらかと言えば望まない	2	2	5	2	1	1	2	3
	望まない	0	2	2	1	1	0	1	
C 環境保全型の農業によって自然環境も良好に保たれ、コウノトリも増えている	そう望む	63	34	46	48	52	49	47	82
	どちらかと言えば望む	21	48	36	35	34	30	35	
	どちらかと言えば望まない	5	5	2	2	6	2	4	6
	望まない	0	3	6	2	2	0	2	
D 空き地や平地林などに新しい宅地開発が進み定住する若い世代や移住者が増える	そう望む	47	37	32	38	39	34	37	70
	どちらかと言えば望む	35	40	30	36	30	30	33	
	どちらかと言えば望まない	7	11	13	9	10	14	11	20
	望まない	0	7	14	10	12	5	9	
E 空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切にした住宅整備やまちづくりが進む	そう望む	63	43	54	49	52	42	49	86
	どちらかと言えば望む	33	48	30	37	35	38	37	
	どちらかと言えば望まない	0	4	2	5	3	5	4	6
	望まない	0	2	4	1	1	1	2	
F 公共交通機関の整備や、徒歩や自転車で安全・快適に移動できるまちづくりが進む	そう望む	74	69	70	76	77	62	71	92
	どちらかと言えば望む	16	30	22	19	17	21	21	
	どちらかと言えば望まない	5	0	2	1	3	0	1	1
	望まない	0	1	1	0	0	0	0	
G 車社会に対応して、駐車場やバイパスの整備など、車での移動が快適になる	そう望む	65	56	50	52	50	31	49	81
	どちらかと言えば望む	21	35	33	34	32	31	32	
	どちらかと言えば望まない	7	6	8	5	10	15	9	12
	望まない	0	2	5	2	3	4	3	

7-2 集計結果より

●本設問の趣旨

本設問は、田園環境と都市環境の調和が取れた未来の小山市のあり方を考えていくにあたり、その基盤となる「産業、宅地開発、交通政策」について、各地区ごとに「積極的支持/共感」から「不支持」の軸の上で、市民の考えを確認していくものである。項目としてあげたことは、これまでのグループインタビューでも語られているように「開発か自然環境保全か」「工業優先か農業優先か」などの「二者択一」で語るのは非常に難しい側面がある。「未来の子どもたちのために自然環境は残したいが、開発もして人を呼び込まないと地域が廃れてしまう」など、多くの市民の意識には「どちらか」では割り切れないある種のジレンマが存在する。それではどうするか？という小山市の未来へ姿と、そこへの道のりを市と市民で意見交換を重ねながら探っていくのが、未来ビジョンの策定であり、そのための参考資料として、本設問の結果はディテールを読み解きながら活用していくものとした。

●結果の概観

7項目は、A/G/Dがどちらかという「開発志向」の内容となっている。大きな差異が出たわけではないが、同じ設問で調査を終えた他の地区(豊田地区・小山地区・大谷北部中部地区・大谷南部地区)と同様に、総じて、開発志向の「商業・工業が発展し経済的に発展すること」「平地林や空き地に宅地造成を進めること」などの項目より、「農業・環境保全を大切にすること・空き家などあるものの利活用をすること」への支持・共感が高い傾向にある。また、桑地区では、車社会としての利便性(項目(G))より、車がなくても移動しやすい環境を望む声(項目(F))が、「(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計で)10%の開きで上回っていることにも着目しておきたい。

年代による差異では、若い世代や新規住民のための住宅整備を、どのように行うかについて尋ねた項目(D)(E)の20代の意識に注目したい。

(D)「空き地や平地林などの宅地開発を行う」に「そう思う」という積極的支持は、20代が最多47%で、40代が最少32%であり、15%の開きとなっている。(E)「空き家の改修や利活用が進み、あるものを大切に」に「そう思う」という積極的支持は、やはり20代が最多で63%、最少は70代以上で42%と、20%の開きが出ている。大きな差異では無いが、若い世代が積極的な開発より、あるものを大切に利活用していくことに価値をおく傾向の一端が窺える。

7-3 自由記述の内容について

【7】では下記のように自由記述の欄も設けた。

(2)最後に、お考えやご提案を自由にお書きください。

*例えば、上記のAからGであげた例以外に、20年後、30年後の望ましい小山市の都市環境のあり方として、お考えがありましたら教えてください。*また、小山駅周辺の都市環境を持つエリアも、それを取り込む田園環境が広がるエリアも、バランスと調和がとれ、より良い関係を作りながら持続可能なまちづくりを進めていくために、小山市が大切にしていけるべきこと、具体的など提案など、自由にお書きください。

322名から回答があり、別添の「アンケート集計結果報告書」では、回答をテーマごとに掲載した。複数の項目の記述がある場合は分割して掲載している場合もあり、また、明らかな誤りと認識できる表記は書き換えているが、基本的には原文のままの記載としている。

次頁からは、まず、自由記述全件の解析から見えるキーワードの紹介と、次に、分類したテーマと、一部のテーマについては、コメント内容の概要を記し、いくつかのご意見を紹介する。

が良いのではと思います。アクセス(直行便がある、駐車場無料、各方面からのルートが分かりやすいなど)のしやすさを確保することで、自然に交流が保たれると思います。

◎田園部は確実に人手が足りなくなると思います。ただ、子育てにはいい環境であると思います。拠点となるベースがあれば、もっと田園部に興味を持つ若い人が増えるのでは？筑西市のようちえんごろすけの活動、宇都宮の白沢公園の環境、小山市に近いと思うのですが、いかがでしょうか？

1-3 農業について (10件)

小山市の食料自給率を上げていくこと、非農家の市民がもっと小山市の農業に関心を持つような行政の啓発や広報が必要であることなどが様々な視点で語られている。

◎耕作放棄地がなくなるよう、農業(特に有機農業)の活性化が進んでいることが理想。農家の人数を増やすため、自分の食べているものがどのような努力の上に作られているか、農業に興味を持てるような土壌作り(食育etc.)が必要だと思います。

◎20~30年後となれば、農業の担い手・後継者不足は深刻な問題になると思います。畑の管理すら難しくなるのでは？と思うほど、農業をやる人はいません。そのためには(外部からでも)農業の担い手を育成しなければならないと思います。(小山市内の食料自給率を保ちたいのなら…)そして、小山市はとても広いです。エリア別で何が生産されているのか…小山市民がもっと地元を知って、愛していかなければ良くはならないです。ですので、小山市の行政からは常に小山市の情報を色々な形で発信して、アピールしつづけて頂きたいです。

1-4 商工業の誘致や振興について (26件)

商業施設、レジャー施設、道路整備などの要望に関するご意見。

1-5 都市部の開発と生活環境などについて (39件)

市域全体の開発、JR宇都宮駅周辺の再開発、空き家と空き地の問題(民家及び閉店したパチンコ店などの商業施設)。大別するとこの3つに関するご意見が寄せられている。

市域全体の開発については、下記のように、全体を見た上でのバランスを問うご意見がある一方、コンパクトシティ化の推進を望む声もある。

◎市内中心部のみならず市境エリアまで目を配って開発(都市)を展開してほしい。中心部に目が行きすぎ。市の南側に力を入れすぎている感が強すぎ

◎小山市の北の地区ですが、段々と過疎化が進み水道下水もままならず、バランスが都市中と調和がとれてないし、淋しい日々を送っています

◎中心市街地及び北部の活力の低下、南部に公共の施設等が片寄りすぎ、バランスの取れた街作りが必要

2 | 移動と交通について

2-1 車での移動について (26件)

道路に凹みがあるなどの道路状況の不具合、離合できない狭さ、交通渋滞、歩行者や自転車の通行が危険である道路の状況についての内容がほとんどで、交通マナーの悪さについての3件の言及があった。

2-2 公共交通機関について (40件)

内訳としては、おーバスと路線バスに関して実情に合っていないという意見が22件、高齢化が進行する過疎に近い地域での移動の足を心配する声が15件、JR路線などについてが3件という内容であった。

3 | 生活環境や福祉などについて

3-1 教育、子育て世代・若い世代について (43件)

子どもたちが遊び学ぶ環境などが現状のままでは、小山市の未来に生きる今の子どもたちが、大人になって小山市に残る、または戻ってくるという可能性が少ないのではないかと、という危惧のもとに、様々な視点からのご意見がある。

◎既存の森林や自然を破壊し、無理な建売住宅の販売が目につきやすくなっています。自然よりも先に、人の住んでいない空き家などの他のところから販売できるよう、条例などがあるといいかなと思います。新しい家ばかり建てても、子どもが遊べる公園も少ないですし、遠距離の徒歩登校の子どもたちはずっと、「昔からそうだったし」と放っておかれたままです。成長や整備も大切ですが、今住んでいる子育て世代が転出しないよう、子どもたちにも目をかけてあげることが先ではないでしょうか？

◎毎週末、孫を連れて行きたい公園がない。

◎子どもが帰省した時に連れて行きたい特別な場所がない。→自宅に泊まらず、日光（建造物・町並）、茂木（ツインリンク・キャンプ・子供のアスレチック）へ行っている。

3-2 高齢化社会について (17件)

少子高齢化が進むことは避けられないこととして、それではどのような対策が必要となってくるか、どのような対策が望ましいか、具体的な提案があるご意見もある。

◎高齢化社会に向けての工夫をしてほしいです。例えば、駅にベンチを増やして休む場所をつくるとか、持ち寄りのお弁当やテイクアウトのお弁当の食べる場所を作るとか、あまりコストのかからないように、自由に食事ができる場所を確保して整備してもらえたらありがたい。

◎だんだん年寄りが増えていくので、過疎化しない小山市に。若い世代との交流(コミュニケーション)の機会を。

◎高齢者や、心身不自由な方が、自宅のゴミを収集場所迄出せなくなった時市で自宅まで、ゴミを引き取りに来るシステムを作って欲しい。

3-3 地域コミュニティ、共生社会について(10件)

10件のご意見の半数が自治会運営の問題点や限界について書かれたものであるが、具体的な提言なども含む長文が多い。また、下記のように、多様化が進む小山市において、相互理解と交流という視点から「祭り」の着目したご意見もあった。

◎日本の文化・歴史に関心のない人が、近くに住む人と仲良くする。特に外国にルーツを持つ人と、小山の歴史を一緒に作ること。自分とは違う価値観を持つ人でいかにして、一緒に協力するかということ。お互いの差別心をいかに許せるか。新しい祭りが必要だと思う。観光を目的としない祭り、地域活動のためではなく、ただ楽しい祭り。

3-4 安全・安心な環境について (14件)

ゴミ出しのマナーやルール、防犯、災害時の対策などのご意見が寄せられた。

4 | 以上に分類されないご意見 (+現状に対する要望、暮らしてみてもの感想など) (44件)

公共施設についての要望や、駐車場(少ない)の問題、閉鎖的(高齢者や地元名士の意見ばかり尊重)、イベントの再考を(ラーメン祭りやキッチンカーなど食べ物のイベントばかり)など、暮らしてみてもの感想として多岐にわたるご意見が寄せられている。

5 | これからのまちづくり、未来ビジョンへの総合的なご意見

主に、以下の4つに大別される。後者の2つについては、何点かご意見を紹介します。

- ・ 市政への要望や感想（4件）
- ・ 人口の増減に関するご意見など（3件）
- ・ その他のご意見（具体的な要望や提案を含む）（40件）
- ・ 30年後の小山市の方向性についてのご意見（25件）

その他のご意見（具体的な要望や提案を含む）

◎今ある自然を大切に残していきたい。農薬や化学肥料、除草剤の使用を少なくしてください。羽川地区には若い自営の飲食店が思いの外点在しています。これらの店がマルシェ的に一ヶ所に集まって商店街になれば、遊び場がハーベストしかない子供達の居場所にもなり、街の魅力も増して若い世帯が増えてくるのではないかと思います。

◎1、開発や樹木の伐採を規制してもらいたい。住宅地や畑の中に土木作業所や土砂作業所トラック駐車場あり、街の美観や環境を破壊している。日本たばこの土地など樹木の伐採、開発が無秩序に行われております。小山市は、美しい緑の街とは、ほど遠い現実を真剣に考え改善・規制してもらいたい。2、ゴミ捨て場について。小山市民は、ほぼ全員、市民税を払っています。自治会に入会していない人も自由にゴミを捨てられるゴミ捨て場を市の行政は独自に設けてもらいたい。行政の義務です。

30年後の小山市の方向性についてのご意見

◎古い慣習や古い考えから脱却し、新しい考えや効率を考えたやり方などを取り入れるようにしていくと、発展していくのでは？若い人達の考えをどんどん取り入れると良いと思う。県外から移住してきましたが、道も広く街として栄えている素

敵な場所だと思っています。過剰な開発を避け、穏やかな自然と共存することが子どもたちにとって当たり前環境であるような、未来を見据えたまちづくりをお願いしたいです。

◎従来の市内全域を使ったまちづくりの形は限界にきていると思う。居住地、非居住地域を厳格に定めた地域開発や小山駅前を中心としたまちづくりなどしっかり方向性を定めて小山市の都市開発を進めて欲しい。限られた予算、全ての人の要望を受け入れた都市計画はもはや不可能。小山市が今後長く続いていくために最善の企画を練っていただきたい。

◎地域の歴史を掘り起こし、誇りや愛着を持てるようにすること。

◎人口減少や高齢化による課題を、デジタル技術の導入によって解決に取り組む自治体となっただければと思います。例えば、桑地区を含めた田園都市地帯は、比較的高齢者が多く住んでいることから、今後、自動車の運転に支障が出る可能性が高くなると感じます。一方で土地的な自由度が高く交通量の多くない事が田園都市の特徴であると思います。この点を活用して、自動運転バスなどの導入が、都市部に比べて容易になるのではないかと思います。そのようなインフラの導入は田園都市地帯の魅力の向上に繋がり新しい住民の方をお迎えすることにつながるのかなと思いました。小山市に事業所を持つ企業の技術を使い上記のような新しい取り組みによって、田園環境とデジタルのかけあわせによる街づくりを進めていただけたらと思います。

◎将来は量より質に力を入れるべきであり、利便性の追求をしすぎると、ふるさとが失われてしまう心配があります。小山市は足腰の基礎を確立しつつ、心を育むふるさとを残して頂きたいと思います。

参考・引用文献

本報告書を作成するにあたり引用した文献を中心に、小山市、桑地区の地域調査・研究を行う上で参考となると思われる文献をまとめる。文献は、作業の中で主にどの分野の情報を得るために用いたかに基づき、仮に項目を分けて整理した。

1 風土の定義

藪田稔編『神道』弘文堂、1988年

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年

思川の自然調査委員会『都市の清流…思川を歩く』（小山市教育委員会、1994年

和辻哲郎『風土—人間学的考察』岩波書店、1979年

オギュスタン・ベルク『風土の日本—自然と文化の通態』篠田勝英訳、筑摩書房、1988年

廣重剛史『意味としての自然—防潮林づくりから考える社会哲学』勁草書房、2018年

廣瀬俊介「風土形成の一環となる環境デザインについて：人文科学における研究成果の参照による風土概念検討を通して」『景観生態学』21(1)、日本景観生態学会、2016年、15-21頁

<https://doi.org/10.5738/jale.21.15>

2 地質・地形

小山市史編さん専門委員会編『小山市史通史編 I 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年

金森定敏「思川の地形と生物」小山市史編さん専門委員会

編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、25-36頁

小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌 第13集』小山市教育研究所、1971年

国土地理院 | 地理院地図

<https://maps.gsi.go.jp>

国土地理院 | 明治期の低湿地データ | 原典資料: 第一軍管地方二万分一迅速図原図 (明治13-19年)

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lc_meiji.html

国土地理院 | 空中写真閲覧サービス

<https://geolib.gsi.go.jp>

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター | 地質図 Navi

<https://gbank.gsj.jp/geonavi/>

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 | 日本土壌インベントリー

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/>

田辺晋「関東平野中央部における沖積層の基盤地形」『地質学雑誌』127(10)、2021年、635-648頁

<https://doi.org/10.5575/geosoc.2021.0019>

木森大我・須貝俊彦「DEM-GIS 解析からみた、氷期の開析地形による制約下での鬼怒川の完新世堆積作用と地形変化」日本地球惑星科学連合 2019年大会発表ポスター HQR05-P06 予稿 (PDF)

<https://confit.atlas.jp/guide/event-img/jpgu2019/HQR05-P06/public/pdf?type=in&lang=ja>

栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2013年
栃木県「栃木県地盤変動・地下水位調査報告書」2021年

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d03/eco/kankyou/hozen/2021jibannhoukokusho.html>

参考・引用文献

野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000 年

3 気候

小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

五十嵐典夫ほか『益子の歴史』益子町、1983 年

栃木の自然 編集委員会編『栃木の自然をたずねて』築地書館、1997 年

気象庁 | 過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

4 生物と生態系

Millennium Ecosystem Assessment 編『国連ミレニアムエコシステム評価 生態系サービスと人類の将来』横浜国立大学 21 世紀 COE 翻訳委員会責任翻訳、オーム社、2007 年

栃木県 | レッドデータとちぎ WEB

<http://tochigi-rdb.jp/>

環境省 | 生物多様性センター | 自然環境調査 Web-GIS

<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>

大谷地区わがまち元気発掘事業推進協議会編『大谷郷土誌』発行同左、2015 年

<https://doi.org/10.5632/jila.63.477>

小林隆人・谷本丈夫・北原正彦「森林面積率とエノキおよびオオムラサキの生息密度との関係」『保全生態学研究』9 (1): 2004 年

廣瀬俊介・田賀陽介「開発を契機に放置林の生態系修復を試みた環境デザイン」日本景観生態学会大会発表資料、2016 年

環境省 | ミゾゴイ保護の進め方の公表について (2016/06/13)

<https://www.env.go.jp/press/102646.html>

5 歴史

原宏『小山の歴史—ひとと まちの あゆみ』随想舎、2023 年

小山市教育研究所『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965 年

静岡県立中央図書館 | 和暦西暦対照表 (近世) |

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/contents/institution/wareki_seireki_E.html

6 地形と陸上・河川交通

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 II 近世』小山市、1986 年

阿部昭、橋本澄朗、千田孝明、大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998 年

『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019 年

高橋修、宇留野主税『鎌倉街道中道・下道』高志書院、2017 年

奥田久『内陸水路の歴史地理学的研究 - 近世下野国の場合』大明堂、1977 年

奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979 年

「日光道中絵図巻 5_野木宿より小金井宿まで」国立公文書館デジタルアーカイブ

<https://www.digital.archives.go.jp/item/1603304>

町史編さん委員会編『図説 国分寺町の歴史』国分寺町、

参考・引用文献

2000年

関正『小山市の野仏 No. 3 【桑地区】—栃木県小山市桑地区「野仏所在調査編」』小山歴史研究会、2019年

7 遺跡

文化庁 | 文化遺産オンライン | 摩利支天塚古墳 |
<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/138077>

同上 | 琵琶塚古墳 |
<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/160748>

伊澤昭「郷土 喜沢の話 (1)」喜沢東部・中部・南部・北部自治会、2022年

「桑西部・中部・東部 歴史・文化・自然散策コース 案内地図」桑地区わがまち発掘推進協議会

羽川地区まちづくり推進委員会「小山市地区まちづくり構想の概要 (羽川地区)」2008年

8 農業

『栃木県下都賀郡誌 (復刻版)』千秋社、2004年 (「下都賀郡小誌」「下都賀郡制誌」を合本収録)

小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年

村上直「近世における小山市域の諸村の様相について」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』2、小山市企画部市史編さん室、1979年、26-47頁

高木正敏「近世林野入会の成立——七世紀後半期下野国を中心として」小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』4、小山市教育委員会市史編さん室、1982年、45-65頁

9 信仰・祭礼

小山市史編さん専門委員会編『小山市史民俗編』小山市、1978年

10 地名

菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

11 桑地区郷土誌

田園環境都市おやまビジョン 基礎資料
桑地区

2024年1月

小山市